

統計研究参考資料

No. 101

ロシア人口センサスの調査環境

2009 年 1 月

法政大学日本統計研究所
Japan Statistics Research Institute
Hosei University

ロシア人口センサスの調査環境

(Survey conditions of Russia's population census)

目次

1. 人々は勘定が好きである	1
『統計の諸問題』2008年 No.9	
2. デニス・グツコ「予備センサス」	9
『アガニョーク』2008年 No.24	
3. 狡猾な数字 —人口センサスはあなたにとって必要ですか—	13
ラジオモスクワのエコー2008年8月26日放送	
4. 人口センサス —200年4月10日付け世論調査報告—	35
世論基金サイト上に公開された文書	
訳者あとがき	44
山口秋義（九州国際大学経済学部）	

1. 人々は勘定が好きである¹

『統計の諸問題』2008年 No9, pp.3-6.

ロススタート（ロシア連邦国家統計庁）は2010年全国人口センサスへ向けた準備を開始した。今秋早々に、モスクワ州、サンクトペテルブルグ市、ハバロフスク市、とにおいて予備人口センサスが行われる。この調査の対象となるのは約30万人である。また、これらの人々の一部は「自己記入方式」に基づいて調査に応じる。すなわち、自ら調査票を記入し、これをロススタートへ郵送することが求められる。作家で『アガニョーク』誌のスタッフライターであるデニス・グツコは、統計家等たちの努力に対して強い疑念を抱いている。（『アガニョーク』誌 No.24 参照）曰く、わが国民は権力を信用しておらず、調査を受け入れないであろう、ましてや自己記入など、と。統計家たちは筆を執り次のように述べる。センサスは成功裡に実施されるし、国民は自身に関して語る準備ができており、疑念はわれわれの障害にはならない、と。

調査員への質問に答えるようロシア国民をどのように説得するか、また行政データベースが整備され個人生活がガラス張りとなっている現代社会において、センサスという古くから行われている方法がなぜ必要なのか、という問題をめぐって、『アガニョーク』誌とロススタート長官ウラディミル・レオニドヴィチ・ソコリンとの会談が行われた。

19世紀に何故センサスが必要であったかは理解できます。人口を数え上げる方法が他になかったからです。今では、ザクス (ЗАГС : 戸籍登録課)、内務省、国境警備庁、その他多くの組織、とにデータベースがあります。にもかかわらず何故調査員を派遣しなければならないのですか。

人口数に関する正確なデータを入手する方法が、残念ながら他にはないからです。それは全く不可能です。今日ロシアには1億4千100万人強の人々が住んでいると私達は公表していません。私達はこのような情報を単純な方法で手に入れました。すなわち、2002年人口センサス集計結果に基づいた人口数に、出生数、ロシア定住を目的とした移民数、とを加算し、死亡数、出国者数、とを差し引いて求めたのです。しかしこのような計算結果は実際の人口数と乖離している可能性があります。

なぜなら、近年のわが国では、全ての出生数と全ての死亡数とが記録されているわけではないからです。例えば、国全体では今日6万人以上の行方不明者がいます。しかし実際には彼等の多くがもう生きていないかもしれないし、或いは国外へ出たかもしれません。

またソ連邦崩壊後、ロシアは国境が開放された国に変わったというもうひとつの事情が

¹『アガニョーク』誌による連邦国家統計庁ヴェ・エル・ソコリン長官へのインタビュー

あります。結果として人々を数え上げるのは益々難しくなっています。一方で、人口問題を解決するためにも、人口数に関する正確なデータを入手することが相変わらず必要です。

ところで、同様の状況は世界中で見受けられます。センサスは全世界人口に関する主要な情報源です。戦後国連は 10 年おきに人口センサス全世界ラウンドを呼びかけてきました。1960 年以降大部分の国々はこれに参加し、そのお陰でわれわれは 1960 年代以降、世界人口数に関する正確なデータを持ち合わせているのです。

移民数を数え上げることは、連邦移民局、国境警備庁、内務省、とが行っています。これらの組織が移民数に関する統計を作成できないはずはないと思われませんが。

ロシアではそれは不可能です。今一度強調しておきます。国境は開放されています。例えばロシアとベラルーシとの間など、幾つかの国境では出入国審査が全くありません。あなたは国境を何度も通過することができます。しかもそのことを国家は把握できません。たとえば次のような場合を考えてみましょう。あなたがベラルーシを経由してウクライナやポーランドへ出国するケースです。統計を使ってこのことをどのように追跡できるでしょうか。

ウクライナやカザフスタンとの国境も開放されていますし、これらの国境を数百万人の人々が通過するのです。わが国の国境警備官は今では出入国者数全体を記録しておりますが、各個人データを記録していません。

例えば、オーストラリアからの出国方法は航空機によるものと船によるものとの 2 通りがあります。そして空港や乗船口において搭乗客の個人情報の記録が行われます。しかしロシアのように他国と陸続きで国境が開放されている国においては、オーストラリアのような出入国管理を行うことは実際には不可能です。

人口センサスに参加するように人々をどのように説得しますか。

西側諸国では人口センサスに参加することは国民の義務です。オーストラリアでは他国の外交官も調査員の質問に答えることが求められます。わが国では人口センサスに参加することは任意であり、したがってなぜ人口センサスが必要かを説明する宣伝活動に取り組まなければなりません。

主要国の経験が示すように、人口センサスを実施するにあたってのマスコミの役割がより重要となっています。ですから、国連人口センサス全世界ラウンドの度に特別な指導書が出版されます。2010 年ラウンドに向けて出版される指導書には、私どもロススタートの努力の甲斐あって、情報宣伝活動に関する章がはじめて含まれました。

確かにこの領域における私たちの経験はそれほど多くはありません。ソヴィエト時代には人口センサスに関する宣伝が大して必要ではありませんでした。しかし今では事情が変

わかりました。ソ連時代は交通の便の悪さもあって農村での調査の困難が主な問題でしたが、今日では第一の問題は都市部にあります。そこには全ての人口グループが居住し、その中にはホームレス、学生、労働者、右翼、左翼、正教徒、イスラム教徒、等がいます。調査員の質問に回答するよう彼らすべてを説得することが必要です。

2002年人口センサスの後、私たちは西側の統計家たちと会い、集計結果をめぐって議論し、西側諸国ではどのように統計活動が組織されているかを質問しました。そのなかで示されたアメリカの経験は興味深いものでした。そこでは人口センサス実施に先立って、大統領府が主要な通信社やテレビ局の代表を集め、センサスの意義を説明しセンサスに関する肯定的資料だけを報道するように依頼するというのです。

国民は調査員の質問に自ら進んで回答するでしょうか。あるいはあなた方はいたるところで彼らの無関心や不信と衝突するのでしょうか。

人々は政府が実施するどのような政策にも懐疑的に対応するものです。なぜならこれらの政策が彼ら自身に即座に恩恵を与えるものとは見なされないからです。また人々はいたるところで次のように言います。あちこちで横領があり官僚主義が蔓延している。それなのになぜ私たちは人口センサスに参加しなければならないのか。センサスを実施しても何も変わらないと。

調査員が政府から派遣された本物かどうか確かめたいという苦情が寄せられます。調査員は身分証明書をもっていますし、センサスは政府によって行われます。当然、人々は調査員を公人として受け入れます。先のセンサスにおいて、国民は安い年金や賃金の未払いについて苦情を言いました。賃金が未払いであったためにひとつの村全体がセンサスに参加することを拒否した事例がありました。

結局どのようにして人々の疑念を払拭しようとしていますか。

すでに情報宣伝活動へ予算を割いており、その額は2010年センサス予算全体の4~5%に達します。民族的特徴と宗教的特徴とが考慮されます。簡単な例を挙げましょう。2002年センサスの際に私たちは南部の地方に「カフカス民族の顔付きの人」を描いたポスターを掲示しました。結果として抗議の電話が殺到しました。はじめはオセチアから「どうしてポスターにグルジア人が描かれているのか」という電話がかかりました。私たちは驚いてポスターを見るとそこには確かに烏打帽をかぶった人が描かれていました。それがグルジア人の特徴だとわかったのです。ポスターは撤去されました。次にチェチェンから電話がかかりました。「どうしてここに掲示されているポスターにはオセチア人がいるのか。どうしてチェチェン人ではないのか。われわれはイスラム教徒で、彼らはキリスト教徒であ

る。」結局私たちはカフカス地方の全てのポスターを撤去することになりました。

センサス直前に私たちは宗教団体の代表者たちと会い、センサスに参加するようミサや説法の際に信者に説得するよう依頼するつもりです。経験が示すように、これはイスラム教徒にとってもキリスト教徒にとっても有効な方法です。

今秋、予備センサスが行われる予定であり、被調査者の一部は「自己記入方式」に基づいて調査されます。この方法のどの点が画期的でありこの方法がなぜ必要なのですか。

この方法は要するに次のようなものです。対象者に調査票が郵送されます。彼はそれを自分で記入しわれわれに郵便をつかって返送します。

ところでロシアではこの方法は既に 1897 年第 1 回人口センサスにおいて用いられています。都市部において人々は調査票を自分で記入しました。今日に至るも記入済みの多くの調査票が保管されています。例えばヴィテフスクのシャガール美術館には、マルク・シャガールの父親が他の 16 人の家族分とあわせて記入した人口センサスの調査票が展示されています。またわが国の公文書館には、ニコライ 2 世とアレクサンドラ・ヒョードロヴナによって記入された調査票が保管されています。「職業」の解答欄に皇帝は「ロシアの大地の主人」と記入し、皇后は「ロシアの大地の女主人」と記入しています。

今秋行われる予備人口センサスの幾つかの調査区において、自己記入方式を試験的に導入する予定です。その第一の課題は、人々が自分自身で調査票を記入することができるかどうかを見極めることです。この調査票は随分難解で多くの記入欄からなる書類です。

第二の課題は、人々が記入済み調査票を郵送する用意があるかどうかを解明することです。なぜならば近年多くの人々が郵便を利用することを止めてしまったからです。そのうえ今のロシアでは郵送費がとても高いので、自己記入方式は結果として多額の経費を要するものとなるかもしれません。

いずれにせよ調査員による聞き取り調査を全く排除することは不可能です。考えてみてください。飛行機以外に訪問手段のないエヴェンキヤのどこかの村へ、どのように調査票を郵送し、人々がどのように調査票を返送することができるでしょうか。生身の調査員を派遣したほうが楽です。

西側諸国では「自己記入方式」がどの程度有効に機能していますか。

この方法は殆ど全ての西ヨーロッパ諸国、アメリカ合衆国、オーストラリア、とにおいて採用されています。全体としてみると、この方法は十分有効であるといえます。ところで、2000 年に行われたアメリカ合衆国人口センサスでは、1990 年代に移り住んだロシアとウクライナとからの移民から、自己記入済み調査票を回収することが他の人口グループと比

べて大変困難であったことが報告されています。彼等からの回収率は、アメリカ先住民や 1970 年代から 1980 年代にソ連から移住した人と比べても特に低かったとのこと。彼等に対してセンサスに参加することは憲法に定められた義務ですと言っても、あなた方の憲法が何ですかとかれらは言うのです。

今日、人口問題は非常に困難で重要となっていますので、多くに国ではパーマネントセンサスへ移行しつつあります。例えばフランスは 2005 年以降自己記入方式に基づく毎年のセンサスへ移行しました。アメリカでは 2010 年人口センサス以後、人口の 7~8%を対象とした毎年の調査が行われる予定です。そこでは自己記入方式が不可欠です。なぜならば多くの調査員部隊を常駐させるのは許されない贅沢であるからです。わが国のおかれた状況を考えれば特にそうです。通常の方法で人口センサスを実施すれば 50 万人以上の調査員が必要となりますから。

インターネットを利用して調査票を記入することができるようになるのはいつですか。

わが国も他の大部分の国々もこの方法への準備が未だできていません。インターネットを利用してセンサスを行おうとすれば、統計官庁は次の 2 つの重要な問題にぶつかります。

1 つ目は、情報をどのように保護するかという問題です。あなたのコンピュータからわれわれのコンピュータへ情報を取り込むのは簡単です。ですが、法律によって個人情報の保護が義務付けられています。そのうえ自らの利益を目的に人口センサスを悪用したいと思う人々は実に多くいます。例えば 2002 年センサスが行われたときに、モスクワで 2 人の若い人が私どもを訪れて次のように言いました。「私達は調査員として働く用意があります。しかしひとつだけ条件があります。この区この建物のこの階を担当させてください。」私達は彼等を拒否し内務省へ通報しました。また、情報を厳格に保護するためには複雑な暗号化プログラムを使って情報を暗号化することが必要です。

インターネットを利用したセンサスの 2 つ目の問題は、調査票を記入する人をどのように認証するかということです。たとえばあなたが家のコンピュータを使って家族全員に関して調査票に記入したとしましょう。その後あなたの奥さんが職場のコンピュータを使って調査票に記入し、その後おじいさんとおばあさんが別荘で記入する。これらの全ての情報はそれぞれ違ったデータ処理センターへ送られ、この 1 つの家族が 4 回重複して数え上げられることとなります。調査員が各世帯を訪問してセンサスが行われる場合は、この問題は回避されます。

国外へ留学している子供をどう扱うかというもうひとつの問題があります。オーストラリア人とノルウェー人がこの問題に悩んでいます。彼等は、ソルボンヌかどこかへ長期留学している子供をその妻と孫を含めて、調査票に記入してしまうことがしばしばあります。しかし統計上の扱いでは、国外に 1 年以上住んでいる人は住んでいる国の住人として、居

住地において統計調査を受けることとなります。調査員が面と向かって質問する場合はこのような事情はよくわかりますが、インターネットや郵便を利用して調査票が送られる場合はわかりません。

センサスの過程で人々はどのような質問項目に対して進んで答えにくいと思いますか。

民族属性に関する質問に対してです。憲法の規程によれば、国民は民族属性に関して答える必要がありません。私達もセンサスの過程においてこのことを遵守します。2002年センサスにおいて、自らの民族属性について回答しなかった人は150万人ほどいました。これは全人口の1%程度であり、わが国の民族構成全体を明らかにする上で特に大きな数値ではありません。ところで、人口センサスは民族構成に関する唯一の情報源となっています。

人々が進んで答えないもうひとつの質問項目は収入源についてです。約150万人の人々がこの質問項目を無視しました。

2010年人口センサスの実施過程において、学歴に関する問題が新たに浮上すると思います。以前は学歴の区分は全く簡単であり、中等教育、技術専門学教育、大学教育、といった具合でした。今では教育制度はより複雑となっており、バカロレア養成課程（бакалавриат）やマギストル養成課程（магистратура）などの新たな学士課程が現れました。2010年センサスが行われる時には、このような学位を持つ人が大変多くいることでしょう。

時々困難が生ずるであろうもうひとつの問題があります。それは就業に関する質問項目です。たとえば妻が清掃係として働いていて所属する企業が何を生産しているのか知らなかったとしましょう。彼女は「清掃係」と答えます。問題は「どの産業部門の」ということです。

どうしてそのことを知る必要がありますか。証券取引所の清掃係と売店の清掃係と何が違いますか。

これによってどの産業部門において労働力が不足しどの部門で余剰かを明らかにすることができます。しかも、働く場所は熟練の形成に大きく影響します。一方ではオフィス機器や最新の清掃機器を操作することができる銀行の清掃係がおり、他方では長靴工房の床を掃除する娘さんがいる、といった具合です。このことは再訓練の可能性に影響を与えます。

ホームレスと移民とどちらの人口グループの方が調査しづらいですか。

われわれがホームレスや移民を調査するにあたって、内務省と連邦移民局とから積極的

な協力が得られています。彼等は皆集まって暮らしており、住んでいる場所もはっきりしています。これらのホームレスにはリーダーがいますので、彼に次のように言います。「人口センサスが行われるので来てください。私達のところで腹ごしらえをして、風呂に入って、暖まって行ってください。」すると、彼等のほぼ全員がやってきます。前回のセンサスでは、私達は彼等のために特別に調査拠点を幾つか設けました。たとえばモスクワでは駅にある泥酔者医療留置場や救護所のとなりに設置しました。

浮浪児をどのように調査しますか。

浮浪児の大群というのは神話に過ぎません。彼等が何人いるのか正確には私は知りませんが、大体の数を推計することは可能です。1999年には学校に通っていない7歳から15歳までの子供の数は約6万5千人であり、そのうち2万7千人以上が病気を原因としました。今ではその数値はそれぞれ、2万1千人と1万6千人となっています。差の5千人は理由なく学校へ通っていない子供の数を示しています。これらの子供の大半は、世話をするものが誰もいない子供達です。つまりこれらの子供達には養育する親や親戚がいるものの、必要な関心が向けられていないのです。

統計に反映されない膨大な数の移民という、もうひとつの神話があります。前回のセンサスを集計した結果、シベリア連邦管区には約5千人の中国人が住んでいることが分かりました。地方大統領府全権は「中国人は何百人もいますよ」といっていましたので、私は「彼等はどこにすんでいますか」と聞きました。「どこかに隠れているのだろう」と彼は答えました。

私は彼に次のように言いました。「考えてみてください。例えばノボシビルスクのどこかに10万人の中国人が隠れ住んでいるという状態を。これはルージニキスタジアム一杯よりも少し多い数ですよ。これらの中国人は飲んだり食べたり煮炊きをしたりしなければならぬのに、どこにかくれることができるでしょうか。」これ以降、全権はわれわれの数字を信用するようになりました。

ホームレスや移民の調査に関わる問題は解決できることが分かりました。では他にどのような人々との問題が残っていますか。

富裕層です。彼等との間に最も大きな問題が生じます。しかもこのことは外国の同僚統計家たちのところでも起きている問題です。2002年センサスでは、われわれの調査員が高級別荘地や郊外の一戸建住居を訪れた際、全く扉を開けてもらえないことがしばしばありました。また扉が開けられても、その後予期できない事態に発展することがありました。例えば、われわれの調査員である一人の若い女性が、ルブレヴォ・ウスペンスキー大通りにあ

るひとつの邸宅の呼び鈴を押しました。扉が開けられましたが、彼女は目隠しをされ家の中へ連れて行かれ、そこで目隠しをはずされました。彼女が調査票を記入し終わると、彼女は再び目隠しをされ、通りへ出てからやっと目隠しをはずされました。この女性調査員はとても恐怖に怯えていました。

この問題をどのように解決しますか。

私達にできることは人々を説得し納得させることだけです。しかし社会の「闇」にいる人々は「闇」から出てくるのを望まないものです。

2005年からロススタートは貧困に関するデータを公表していません。なぜですか。

数年前に新しい最低生活水準が法律によって決められましたが、これを計算するためのインストラクションが政府によって承認されなければならなかった、という問題があります。このインストラクションができるまで、私達は貧困の測定ができませんでした。5月6日にこれがやっと承認されましたので、私達は必要な計算を全て行いました。2007年第4四半期における最低生活水準は全国平均で4005ルーブルであり、この所得未満の人々は1890万人に上りました。これは人口全体の13.4%です。

5月にロススタートは経済省の付属機関となりました。経済省は経済政策の実施に対して責任を負う組織です。ロススタートは経済政策の成果について測定する組織です。統計活動へ介入し、統計数値の「辻褄あわせ」をしようという誘惑が、経済省に生ずることはありませんか。

ありません。あらゆる理由で経済省を批判することは可能ですが、あそこで働いているのは教養のあるエコノミスト達です。数値の真実を歪める必要など彼等にはありません。なぜならば、その場合彼等の計画は実態から引き離されてしまうからです。それでは意味がありません。

ところで西側諸国ではこのことをビジネスマン達も理解しています。彼等はこういいます。われわれはビジネスの世界で働いている。われわれに必要なのは、どこへ進むべきか、どこに嵐があり、どこに凧があるか、という座標である、と。このような座標は統計です。統計数値を歪曲すれば、座標の体系は崩壊することを私達は知っています。わが国のビジネスはまだこのことを理解していません。

2. 予備センサス

デニス・グツコ（作家、ロストフ・ナ・ドヌー在住）

『アガニョーク』2008年 No.24, pp.10-11.

ロススタートは新しい方法でわれわれの数を数えようとしている。そこではわれわれの国民としての義務が強調される。人口センサスが今日のロシアにおいてどのように実施されるかは、われわれの権力からの隠蔽性を示す最も明瞭な例である。そしてこのような隠蔽性の原因は、われわれの無意識の中にあるのではなく、国家自身の論理の一貫しない行動の中にある。



（制服姿の人は警官）

調査員：全部自分で記入してください。あなたに良いことがありますよ。

被調査者：それってどんな？ 奥の人：自分のことを自分で調査票に書いてください。

今秋ロススタートは、2010年に予定される全ロシア人口センサスのドレスリハーサルとして、予備人口センサスを実施する予定である。このリハーサルは、サンクトペテルブルグ、ハバロフスク、モスクワ州、とに居住する30万人を対象として行われる。予備センサスにおいて採用される新方法のうち最も重要なものは「自己記入」の原則である。すなわち、国民が自ら調査票を記入しそれをロススタートへ郵送することが求められる。次のような事情を理由として、われわれには国民としての義務が求められる。すなわち、多くのヨーロッパ諸国において、すでに長年にわたり自己記入方式が有効に機能している、という事実が引き合いに出されるのである。何よりも世帯が自己記入方式に関心を示さずであろうし、また外国人もそうである、とロススタートは述べている。

2006年に行われた全ロシア農業センサスにおいて、調査員と被調査者との関係は芳しいものではなかった。世帯と調査員との関係は特に不快なものとなった。調査員はあるところでは番犬を放たれ、あるいは斧を持って追いかけられた。被調査者が申告する情報はいかなる場合にも悪用されることなく福祉のために利用されるだけであると、政府は根気よく国民を説得するよう努めた。しかし国民の大多数はセンサスを拒否することを選択した。ロシアの福祉とは、悪い冗談のように思われる。責任者等は、センサスの全期間を通じてわ

れわれがどう行動すべきかを、悲観的になりながらも次のように呼びかけた。

「国民の皆さん。政府はあなた達をより深く理解するようになります。何を生活の糧としているのか、どの言語を使って考えているのか、などについてです。強情を張らないで、自分自身について調査に応じてください。」

ロストフ州を含めた多くの州では、調査員は警官に助けを求めなければならなかった。このことは当然ながら、センサスに対する国民の信頼を強めることには繋がらなかった。官僚によるコメントも何ら役に立たなかった。連邦国家統計庁ロストフ州地方局長のウラジミール・エメリヤノフが次のように愚痴をこぼしていたことが思い出される。

「ロストフには、500ヘクタールの温室群の前に立って、自分には全く資産がないと宣言した人物がいた。」

調査員が出会ったこの人物の背後に建っていた温室が、誰のものかが相変わらず重要であるのならば、「提示される情報は匿名性を有する」と説明することにどんな意味があるだろうか。このことを理解するのに多くの説明を要しないであろう。その上、公表された前回のセンサス集計結果によると、ロストフ州全体で「所有者不明の耕地が15万ヘクタール以上存在する」のである。

被調査者サイドからのサボタージュにもかかわらず、2006年農業センサスは成功裏に実施されたと公式に宣言された。2010年には一度に5倍に増額された予算が人口センサスに割り当てられ、政府はわれわれの国民としての自覚を獲得するよう試みる。国民としての自覚を発揮することは、ここでは調査票を郵送することを意味しており、大した労力を要するものではない。しかし、国民の自覚を欠いたまま、わが国において自己記入方式を実施することは不可能である。

自己記入とは意味深長な響きがある。これは単なる平凡な「センサス」ではない。この言葉には、「物語」とか「伝説」といった言葉に似た奥行きがある。すなわち、現代に生きるわれわれひとりひとりが自ら生きた証を刻むことができる、時代に関する物語である。このようにこの言葉だけは、全く違った文化から移入されたものである。すなわち、政府が国民の無自覚さを責めることなく、また協力するように国民の懇願することもないどこか他の国から、移入されたものである。なぜならばこれらの国々では、政府と社会とが平行である世界に住んでいないからである。これらの国々では、潜水艦の乗組員が潜水時にハッチを閉めるように、人々がお互いのドアを少しの隙間なくパチンと閉めたままである、ということはないのである。

自己記入方式は、権力が無謬の民族指導者と盗人の地方エリートとへ区別される、と国民が考えていない国々における文化である。これはわが国で可能であろうか。権力に対する不信が慢性疾患のようであり、近い将来において改善される見込みのない国において可能であろうか。国民が不信を抱く権力とは、皇帝陛下でもクレムリンの大統領でもなく、より身近な県や市当局の役人ことである。

問題を次のように解釈することができる。すなわち、自己記入方式を導入することによってわれわれを文明化したいのだと。センサスを怖がらないように慣れさせるのだ。われわれの国民団結の精神を目覚めさせるのだ。それは名称がころころ変わる 6 月 12 日の祝日の際に行われるようなものである。あるいは、真に大国としての感激に満ちた大統領就任式における雰囲気のようなものである。しかし、われわれを文明化しようというロススタートのこのような帝国主義的抑圧は、崩壊する運命にあることも明白である。

今日のわれわれの権力に対する隠蔽性は、明らかに遺伝的背景をもっている。強制移住、富農撲滅、密告制度、など、これら全てはほんの二世代前の出来事であった。しかしわれわれの隠蔽性を非難しても何もならない。これは隔世遺伝のように表へ現れ、社会構造の健全化を阻害する。

わたしはおそらく社会が健全化することを喜ぶのだが、少し恐ろしくもある。というのは、文明化された行動を私に求める国家が、自身では全くそうではない。このような事例は次々に現れ、実に多くみられる。

私個人に関して例をあげよう。わが国エリートによる最近の奇行のうちで、最も深刻であったものは、不明確かつ歪んだ国籍法である。新しい国籍法が採択されてから私はロシア国民ではなくなってしまったのだ。なぜなら、1993 年に私はロストフの学生寮に住んでおり、その時の滞在登録が一時的なものであったからである。いずれにせよこれは文明的でありよく考えられたものである。母国の権力による法律の罠に陥ってしまうこのような人間がわが国に何人いることだろう。

いいえ、国家には隠蔽性を理由として私を責める資格はない。自分で考えて見るが良い。はじめはただ調査するだけだと私に言い、後で書類を振りかざしながら、通常のセンサスによって数え上げられた所有者不明の耕地が何ヘクタールあったかが報告される。これらの耕地はどのくらいの深さまで耕されているか、その許可を受けているか、といった問題に対して関心が向けられる。土地利用に関する秩序をもたらすべき時期が来たと宣言される。たしかに秩序をもたらすべき時は来たのかもしれない。しかしそのためには、わたしから始めるのではなく誰か他の人から始めるべきである。すなわち、村役場の責任者達や地区建設局の責任者達から始めるべきであろう。土地やその上にどんどん伸びていく建築物に関して誰も何も言わない理由は、調査員や彼等に帯同する警察官を含めた全ての人知っている。

またこれと全く同様のことであるが、ロシアの都市や農村に居住する外国人に対して関心があることを、ロススタートが白状する必要はないのである。曰く、特別なことは何もない、これらの外国人が何を目的にロシアへ来たかただ関心があるだけだと。しかしグルジア人が国外退去させられて以後、このような説明は通用しない。プーチンとサーカシビリが激しくやり合ったとき、滞在登録の有無に基づいてグルジア人が国外退去処分を受けなければならなかったのだ。世論調査によれば、確かに大部分のロシア国民はグルジア人の追放

を支持したようだ。昨日はグルジア人であったが、今日は誰の番であろうか。

「われわれがオリンピックの放送にくぎ付けになっているときに、誰かがガス管に悪戯をしないと限らない、とでもいうのであろうか。われわれは隣人のことを知らないほど平穏でいられるのだ。」

今日のロシアにおいて国民の自発的参加を期待して政府が行う計画のうち、失敗に終わるのは人口センサスだけではない。すなわち、「やってください、悪いようにはしないから」という普通の原則が機能するときは、全てうまくいくのである。たとえばわれわれが運転時にシートベルトを着用するようになったのは、罰金制度を導入して以後のことである。しばしば目にする物分りの悪い「ストリートレーサー」は勿論例外ではあるが。

住宅管理局の改革の目的は、自分の住居の管理形態をわれわれが自由に選択することができるようにするということであったが、この改革そのものはわれわれ国民を抜きにして進められた。全く静かに人知れず行われたのである。かつて自治体に属していた管理事務所と今日の民間管理会社とが、われわれの見解など一切考慮することなく、平和的に市場を分割した。そしてわれわれはここではサボタージュを行っているといわれ、またここでは無自覚であるといわれるのだ。これら全てはわれわれのために考えられたことではあるが、われわれに残されたのは、家族会議で論争すること、住居管理を任せるうえで最も信用のおける会社を選択すること、文化的な生活を始めること、とである。大体こんな調子である。悪いが、ひとつだけ聞きたいことがあるのだ。それは、われわれが長年にわたって自治体の金庫に積み立ててきた修繕積立金は今どこにあるのか。自治体が修繕する価値がないと見なし、半分剥がれ落ちたような壁が、全く誰の承諾もなしにわたしの私有財産へ移された。昨日私の金を住宅管理業の闇の中へ消し去った同じ人物が株式会社を起業し、いわゆる「住宅管理業者」と名乗り始め、今では私と契約を結ぶのを待っている。

「いや、もうたくさんだ、お偉方たち。そのような改革のゲームは自分でやってくれ。」

権力よ、君はそれでもやはり何か変だぞ。だが怒らないでくれたまえ。ある時は匈奴か何かのように槍を持って突進し、またある時は突然文明化へ向けて突進する。もうはっきりさせようではないか。できる限り開放的で相互に尊敬しあうために、どのように共存すべきかを決めよう。しかしごめんなさい。予備センサスは未だ全く君たちの実験に過ぎない。

3. 狡猾な数字 ―人口センサスはあなたにとって必要ですか―

ラジオモスクワのエコー 2008年8月26日放送

モスクワのエコーインタビュー

エム・マイエルス： 22時11分です。あらためてこんにちは。お相手はマーシャ・マイエルスです。この番組は「狡猾な数字」です。アシスタントはアリーナ・グレブネワさんです。

ア・グレブネワ： こんにちは。

エム・マイエルス： ゲストはロススタート人口統計保健統計課長のイリーナ・ズバルスカヤさんです。

イ・ズバルスカヤ： こんにちは。

エム・マイエルス： こんにちは。そして高等経済院社会政策社会経済計画研究所長のセルゲイ・スミルノフさんです。

エス・スミルノフ： こんにちは。

エム・マイエルス： こんにちは。まず私からお断りしておかなければなりません、番組のテーマの「人口センサス―それはあなたにとって必要ですか―」は漠然としたものかもしれません。しかし私はこの表現にこだわりました。なぜならば、世論調査によりますと実に多くのロシア人がこの問題に対して否定的に答えており、これには深い理由があるように思えるからです。

ア・グレブネワ： 人々が人口センサスに対して否定的な対応をしているというのは、実際にその通りです。前回のロシアセンサスが行われてから6年が経ちますが、世論基金はこのことに関して世論調査を行うことを決めました。その中の質問項目のひとつは「あなたは人口センサスに参加しましたか」というものでした。結局、2002年人口センサスに参加したのは、ロシア国民のたった70パーセントであったことが分かりました。19パーセントの国民は参加しなかったとはっきり答えました。注意しなければならないのは、世論基金自身も言っているように、ロシア国民がただ忘れっぽいだけであって、この数字を人口センサスが失敗であった証拠と見なすことはできないかもしれません。イリーナ、セルゲイ、なぜ70パーセントというこのように歪んだ結果になったと思いますか。国連の基準に従いますと、90パーセント以上の人々が参加した場合に、人口センサスは有効であると見なされるのですね。

イ・ズバルスカヤ： 正直申し上げますと、私は世論基金によるこの調査結果を知りませんでした。おそらくこれはごく最近行われた調査でしょう。なぜなら、人口センサス直後の10月19日に世論基金のアレクサンドル・オスロン等が行った調査によりますと、被調査者の95パーセントが何らかの形で人口センサスに参加したと回答しているからです。人口センサスの調査を受けた形態は様々であったようです。人口センサスにおいて、全ての被調査者が調査員と面と向かってインタビューに応ずる必要は必ずしもありません。あなたに関する情報を、夫、妻、両親、など親族や近い人があなたに代わって申告することができます。従って70パーセントという数字も、このような場合についてある程度割り引いて理解しなければならないでしょう。

エム・マイエルス： ではお聞きします。あなたのお考えでは、全国人口センサスを実施することは必要ですかそれとも不要ですか。先の世論調査で、人口センサスが必要であると答えている人も70パーセントでした。ところで、不要と答えた人はどのくらいでしたか。

ア・グレブネワ： 16パーセントの人が不要と回答しています。大雑把に言えば5人に1人か6人に1人といったところです。

イ・ズバルスカヤ： でもいずれにせよ大部分の人は必要と答えていますね。

エム・マイエルス： センサスに参加する用意があるといっている人が70パーセントに過ぎないということから、実際にセンサス結果は疑わしいものであり無駄に終わったと解釈しても良いのでしょうか。

エス・スミルノフ： あらゆる結論、あらゆるセンサス結果、あらゆる統計調査の結果、とに対してある程度の疑義が向けられるものです。私はもしかしたらロススタートの痛いところを突いているのかもしれませんが。かつて無効であると宣言された1937年人口センサスを思い出して見ましょう。これは明らかなごまかしであり、全くのでっち上げでした。結局1937年センサスは取り消され、代わりに1939年センサスが行われました。イリーナ、次の通りで間違っていないね。1937年センサスの結果、スターリンによる初期の抑圧と農業集団化とによって、わが国の人口が600万人も失われたことが分かってしまったということです。ですからその時期に何らかの客観的事実について語ることはできなかったのです。今日の事情に関して言えば、明らかに次のような疑問があります。つまり、世帯にとって何らかの心配事の種になるような情報を、人々がどの程度誠意を持って答えてくれるだろうかということ。これらの情報は、収入額と収入源、あるいは世

帯がどのような不動産と金融資産を保有しているか、と言った事柄に関するものです。しかしロススタートはこの問題について非常に正確に捉えようと努力していることと、この問題に関する国民の不安には根拠がないことを指摘しなければなりません。なぜならば、センサスの情報は全く個人を特定しないものだからです。そうですね、イリーナ。

イ・スバルスカヤ： 今の彼の発言を補足するために幾つか発言させてください。われわれは所得額の大きさについては尋ねません。問い合わせるのは収入源が何かということだけです。これは重要な点です。なぜならこの質問は人を怒らせるようなものではないと私は考えるからです。私にちょっとコメントさせてください。世論基金の調査結果に何が書かれているか私はもう一度みました。私はこの数字を見てとても喜んでいるといたいのです。見て下さい。今年是全国人口センサス実施の2年前であり、わたしたちは国民に向かってセンサスを何故行うのかについて何も説明していないのに、既に70パーセントもの人がこれに参加すると言っているのです。これはとてもよい数値です。

エム・マイエルス： あなたは人口センサスがうまくいくかどうかは、センサスの広報活動にかかっていると思いますか。

イ・スバルスカヤ： 勿論です。世界中でセンサスの成果は、すなわちそれが成功したかどうかは、センサスがなぜ実施されるか、このセンサスの結果何がもたらされるか、国民がセンサスから何を期待できるか、とについてセンサス実施組織が国民に対してどの程度正しく説明するかにかかっています。付け加えたいのですが、わが国のイニシアティブの甲斐あって、2010年国連人口センサスラウンドの指示書には今回、人口センサスの広報に関する特別の章が設けられました。

ア・グレブネワ： 国民に対する広報宣伝活動の集中攻撃をロシアでいつ頃始める予定ですか。そのスローガンは、センサスに参加せよ、自らを歴史に刻め、でしたね。

エム・マイエルス： そして安心して眠れ。

ア・グレブネワ： ロシアの歴史に自身を書き込め、です。

イ・ズバルスカヤ： とてもよい質問です。われわれはこのキャンペーンをすでに少しずつ始めました。丁度36日後に予備人口センサスが始まります。これは3つの地域で行われます。それは、モスクワ州バラシハ、サンクトペテルブルグのペトログラード区、ハバロフスクの中央区、とです。もちろん現在の広報宣伝活動の重点は、予備センサスが行われるこ

これらの地区の住民に向けられています。そして今日の放送での論議が、来るべきセンサスと関連した一大キャンペーンの始まりだと見ることができます。

エム・マイエルス： お聞きします。あなたは国連が10年に1度人口センサスを実施するように提言しているとおっしゃいました。わたしたちの番組の主題である、「何故これを行うのか」、についてあなたはどのように考えますか。いよいよ番組の主題に少しずつ近づいてきました。10年に1度ですね。ところでわが国で最後に行われたのはいつでしたか。

ア・グレブネワ： 2002年です。つまり2010年に行われますと8年後にロシア国民はまたセンサスに参加することになります。

エム・マイエルス： ひとつめの質問です。何故そんなにテンポを速めるのですか。そしてふたつめの質問です。それでもやはり、何故10年に1度なのでしょう。どうしてこの周期が選択されたのでしょうか。

イ・ズバルスカヤ： まずお答えできることは、2002年人口センサスはわが国で行われた一連のセンサスのひとつだということです。私がわが国というのはソ連時代も含めたことですが、第2次大戦後人口センサスは1959年から始まって大体10年に1度行われてきました。つまり、1959年、1970年、1979年、1989年、とです。次のセンサスは当初1999年に計画されました。ご記憶ですか、そのとき1998年危機が起きて財政状態が大変厳しくなりました。センサスは多額の費用がかかることを認識しなければなりません。しかもセンサスに関わる業務は長期にわたって行われるものですから、その予算確保期間は少なくとも3年間に及びます。当時そのような予算確保は不可能でした。そして政府は人口センサス実施を延期することを決定したのです。このようなわけで2002年に実施されました。2010年センサスに関して言えば、末尾に0または1のつく年に大部分の国々でセンサスが行われるということを指摘しなければなりません。また国連が2010年人口センサスラウンドを提唱しています。そして各国は周期的に行われる自国の人口センサスを可能な限り2010年に近づけるよう務めています。

エム・マイエルス： 可能な限り近づけるですって。わが国では半世紀に亘って9のつく年に行われてきましたね。確かに0または1に可能な限り近い数字ですけど。(笑い)

イ・ズバルスカヤ： それはおっしゃる通りです。例えばアメリカでは、人口センサスは1790年に始められて以降いかなることがあろうと10年ごとに実施

されてきました。

エム・マイエルス： またここでもアメリカ人だ。アリーナ、わかる？

ア・グレブネワ： はい、彼等はどこにでも登場しますね。

エム・マイエルス： ワシントンの毛むくじゃらな手を借りなければ、人口センサスのような当り障りのないことさえも扱えないのですね。でももしかしたらそんなに当り障りのないことかもしれないですね。セルゲイ、10年周期は何に関連していますか。この周期の根拠は何ですか。

エス・スミルノフ： もし間違っていたら訂正してください、アリーナ。10年周期というのは、経済分析の視点から言うと、少なくとも経済循環の平均的または中長期の周期であるということです。1992年に改革が始まったときロススタートは、経済学者たちにはあまり受けが良くなかった名称の統計集を出しました。その名前は『一週間』でした。ロススタートは毎週ロシアの主要なマクロ経済指標を出版しました。なぜなら、経済状況は非常に速く変化していたからです。経済状況がどこへ向かって進むのかがいつも分かっていたわけではありませんでした。10年間というのは、いずれにせよ経済状況が大きく変化するのに十分な期間です。10年間の間に構造変化が起こり、例えば所得源に関わる非常に大きな構造変化が起こる可能性があります。1989年のわが国ではどうだったでしょう。個人営業収入や初期の協同組合か何かが現れ始めていたのですが、大部分の人は賃金を所得源としていました。過去10年間に何が現れたのでしょうか。いちいち統計的に正確に指摘することはしませんが、平たく言えば、家計部門の金融資産から派生した所得などが現れました。住宅管理業部門における私的セクターや個人所有住宅が形成されました。

エム・マイエルス： わたしもそれをあなたに言いたかったのです。

エス・スミルノフ： どうして言わなかったのですか。

エム・マイエルス： 何をお話したらいいのでしょうか。話し始めたらそれは大部の歴史書になってしまいます。

エス・スミルノフ： 特に99年以降のいわゆる安定期に入ると貯蓄額が増加しました。銀行などの金融機関における国民の貯蓄が増加しました。またどんな種類であれ所得が増加しました。証券市場が現れました。いろいろ語ることはできますが、これらはわが国の客観的現象として存在しています。今後もそうです。

イ・ズバルスカヤ： 「わたしもそれをあなたに言いたかったのです」というあなたのリアクションに対して付け加えたいことがあります。わたしたちがセ

ンサスのプログラムについて話し合い、収入源のリストの中に資産の賃貸収入や貯蓄利子などを含めたとき、多くの疑問と悲観的な見方がありました。また国民が全くこの質問項目に答えないのでないかというとても深刻で悲観的な見方をする専門家もいました。でも収入源に関する質問には全体で 60 万人が回答しました。

- ア・グレブネワ : それは何か特別な人々ですね。
- エム・マイエルス : 1 億 4 千万人のうちのたった 60 万人が何を意味するでしょう。
- イ・ズバルスカヤ : それは問題ではありません。回答は回答です。
- エム・マイエルス : 世論基金が行った 2008 年調査を見てください。2002 年人口センサスにおいて国民が回答を求められた調査項目のうちのいくつかがカードに記載されています。このうちどのような調査項目に対して、国民は正直に答えなかったかあるいは回答を拒否したと、あなたはお考えになりますか。
- ア・グレブネワ : 49 パーセントの人々は、それが収入源に関する項目であると回答しています。その次は雇用に関する項目です。そして民族属性と続きます。
- エム・マイエルス : ストップ、ちょっと待ってください。収入源と雇用とがそれぞれ 49 パーセントと 23 パーセントですね。60 万人が答えた、あるいは答えなかったというのはわたしにはどうでもいいことです。重要なのは、調査項目への回答を拒否し、または全く嘘の回答をする人々からもたらされる不正確な情報に、あなた方がどう対処しているかということです。
- イ・ズバルスカヤ : もう一度いいます。わたしの見解では、収入源に関する質問は人々を怒らせるようなものでは全くないというものです。わたしは調査票の中に示されていた収入源をここでひとつひとつ挙げることができます。いずれにせよまず何よりも労働報酬が基本的収入源です。それから個人の副業収入があります。年金、失業給付、奨学金、他者による扶養、何らかの社会的扶助、これらが基本的なものです。おっしゃってください。これらの質問をあなたが受けたとき、あなたから何か奪われるというような感情が湧きますか。所得に依存して生活していないとか、労働報酬以外の何らかの収入源に依存しないで生活している、とでもおっしゃりたいのでしょうか。
- エム・マイエルス : もし他の大勢の人がやっているように、アパートを人に貸してそこから得られる所得から税金を払っていないのならそうですね。
- ア・グレブネワ : その場合わたしだったらその調査項目の回答欄には一切×印をつけ

ませんね。

イ・ズバルスカヤ： 第一に、センサスは匿名です。そしてあなた方が利用する全ての集計結果は、具体的な個人と結び付けられることはありません。姓名、父称、住所、出生地、などは分かりません。センサスは匿名です。2002年センサスを思い起こしてください。調査票記載の個人情報が売りに出されるとか、この市場でもあの市場でもこれらを買うことができる、という噂がどれだけ広まったことか。しかし6年が経過し、センサス集計結果は匿名性を保持しつつロススタートのウェブサイトに掲載されています。国民があれこれの質問にどのように答えられたかを見ることができます。

ア・グレブネワ： ディーマ、sms を使って質問メールがわたしたちに送られてきたようですね。集計結果をどこで見ることができますか。

エス・スミルノフ： gks.ru です。

イ・ズバルスカヤ： はい、www.gks.ruのサイトです。無料ですのでどうぞ。わたしたちは初めて大容量のセンサス結果の全てをサイト上で公開したことを申し上げなければなりません。全14巻1万1500ページがサイト上に公開されています。これ以外にロススタートの地方機関のサイトには、地方に関するより詳細な情報が公開されています。

エム・マイエルス： 人々が何かを隠しているということを考慮して、集計結果を修正するということはありますか。

イ・ズバルスカヤ： ご存知でしょうか。この場合大数法則は全く関係ありません。

ア・グレブネワ： 社会学者たちの言うところの誤差率という概念があります。彼等は3から5パーセントがわが国人口センサスにおける誤差だといいます。ロススタートも同じように見えていますか。

イ・ズバルスカヤ： はい、ご存知でしょうか。わたしたちは結果を点検するための調査を行い、このような誤差を測定したところ約3パーセントという結果を得ました。

エム・マイエルス： あなたは頷いていますね。今イリーナが言ったことに全面的に同意しますか。

エス・スミルノフ： 基本的に同意します。

ア・グレブネワ： これはわが国で何が起きているかを示す客観的な断面図ですね。

エス・スミルノフ： はい、これはわが国で何が起きているかを示すのに十分な客観的断面図です。

エム・マイエルス： わたしがどのような全く主観的印象をもっているかを説明しましょう。わたしはその意味では素人です。人口センサスが今日における最

も客観的で最も信頼できる情報源であると断言することがわたしにはできないのです。あなた方は専門家ですからもっとよく分かるでしょう。でも実際には非常にはっきりした他の情報源があるのです。わたしは知っていますよ。パスポートに書かれていることは全て正しいということ、労働手帳に書かれていることは全て正しいということ。またヴィザを受取るときに申請書に書く事柄も全て正しいのです。ここでわたしが言いたいのは、これらの情報は全て匿名ではないのです。われわれは皆科学技術の進歩について語ります。しかし1790年以來センサスの方法は変わっていないし、相変わらず調査員がペンと紙を持って戸別訪問することが、最も信頼でき、正確かつ詳細であり、効果的である、と見なされるのですか。

イ・ズバルスカヤ： はい、人口センサスの実施にあたり、実際にロシアで採用されている基本的な方法は、調査員による質問です。

エム・マイエルス： それは先進国で採用されている方法と基本的に違いますか。

イ・ズバルスカヤ： 諸外国では人口センサスの実施方法は様々です。調査員による質問という方法は、統計調査や社会学調査の実施において最も正しい方法のひとつであり、これによって正確な情報を得ることが可能であると考えられています。他の方法もあります。それは自己記入方式です。

ア・グレブネワ： 調査票を郵送するのですね。

イ・ズバルスカヤ： はい、例えばアメリカとカナダでは、調査票を郵送しその後国民が調査票を記入し然るべき住所に返送する、という方法が基本的に採用されています。調査票を回収できなかった人に対しては、調査員が直接訪問し質問します。つまり **face to face** です。

エム・マイエルス： 顔と顔を突き合わせて。

イ・ズバルスカヤ： はい。

ア・グレブネワ： どうしてわが国ではそれができないのでしょうか。郵便を使ったほうが安上がりでしょう。

イ・ズバルスカヤ： わたしたちは今回の予備人口センサスを実施するに当たって、住民との通信手段として郵便を利用する予定です。住民は調査票を郵便を通じて受け取り、記入し、返送します。これは調査票を届ける方法のひとつです。自己記入方式に伴って、調査票を届けるもうひとつの方法があります。調査員が戸別訪問し調査票を置いていきます。一定の期間を経た後、例えば一週間後にこの世帯を調査員が再び訪れるという約束をして、その間に調査票を記入してもらいます。後日調査

員に調査票を渡すこととなります。この方法も予備人口センサスではあわせて利用します。しかし全国人口センサスを実施する際にこの方法を用いることは、もう・・・国民の遺伝的記憶に関してお話したくはありません。しかしこのような方法を用いた国々の幾つかの経験があります。自己記入方式を採用している国々、例えば、カナダ、アメリカ、英国、などでは国民が政府とこのように対応した数十年に亘る経験があります。そして調査票が届いたらこれに記入して返送するというのはいわば彼等の血のように浸透しています。わが国では調査票を捨ててしまうかもしれませんね。

エム・マイエルス： わが国ではまだまだ先のことでしょう。

イ・ズバルスカヤ： ですから何でも少しずつあせらないで進めなければなりません。おそらくあなたは、調査にインターネットを何故使わないのかとお聞きになりたいのでしょうか。

ア・グレブネワ： はい、聴者の一人であるジェイソン・デートンさんは「郵便ではなくインターネットを使うべきでは」といっています。

エム・マイエルス： あなたはわたしの次の質問がよく分かりましたね。ではここで《モスクワのエコー》ニュースの時間です。ですからあなたのお答えは数分後にお聞きできると思います。

ニュース

エム・マイエルス： 22時33分です。では番組を続けます。すでに近づいてきた人口センサスについて話しています。各地区で予備人口センサスはいつ始まりますか。

イ・ズバルスカヤ： 10月です。

エム・マイエルス： これに向けてわれわれは事前に世論形成をするよう務めなければなりません。セルゲイ、お聞きしたいのですが、人口センサスは今日においても情報を収集する上で効果的な方法だと思いますか。

エス・スミルノフ： もしセンサス以外に方法がなく、ロススタートがセンサスだけを実施しているのなら、もちろんこれはあまり効果的な仕組みとはいえません。わたしたちは、10分のいくつ、100分のいくつ、何%、絶対数の指標、などを使って議論しますが、いずれにせよロススタートは可能なあらゆる標本調査を行っています。最も有名なのがおそらく家計調査だと思います。確か標本の大きさは49,175世帯でしたでしょうか。調査において世帯は収入源など信頼できるデータを示し、ロススタートが人口センサスの過程において入手するのと同じ

情報を、世帯は示すのです。雇用と労働市場とに関する調査は確か四半期ごとに行われています。ここでも同じようなことがいえます。人口センサスによって得られたデータと同様の情報を、これらの標本調査によって確認することができます。ですからロススタートはこのように自己点検のシステムを作り上げているといえるかもしれません。

ア・グレブネワ : ここで一方の数字を他方の数字に辻褃を合わせるといったことはありませんか。わたしたちのところへ聴者がこのような違反行為について書いてきています。特に聴者のドミトリーさんは2002年センサスにおいて自らが関わった違反行為について次のように書いています。モスクワ統計委員会が彼に、住宅管理局の住民リストの内容と合致する結果を得られるような質問をするように求めたそうです。また同じく聴者のセルゲイさんはこのような違反行為が県の指導部から指示されたとも書いています。

エム・マイエルス : これは有名な話です。ニュースにもなりました。住民リストにあわせて数字が作られたと。大体どこもそんな調子です。

エス・スミルノフ : 毎年ロススタートはロシア連邦の人口動態を、年齢階層別と出生年別とに分けて示しています。2002年の結果数値は、人口センサスの結果に合わせて実に著しく修正されました。行政記録を利用した統計に示されるよりも、年金生活者の数が多いことが分かりました。従ってセンサス結果も有用であって、利用価値があるとわたしは思うのです。あなたが特別に設定した問題である「センサスはあなたにとって必要ですか」により包括的に答えるためには、おそらく次のように質問しなければならなかったでしょう。「センサスは誰にとって必要ですか」と。実際には人口センサス結果はおそらく、一般人としてのわたしやイリーナにとって余り必要のないものです。しかし統計家のイリーナや経済専門家のわたしにとって、これらは必要です。

エム・マイエルス : ラジオの司会者であるわたしにとってはどうですか。

エス・スミルノフ : ロシアが何によって成り立っていて中味がどうなっているかは、あなたにとっても興味深いことだと思いますよ。これは単なる領土ではなく、そこに人が住みついている領土です。彼らがどんな状態か。

エム・マイエルス : わたしの関心を満足させるために、この事業に対して莫大な予算を投じてよいものでしょうか。

ア・グレブネワ : 7億5千万ドルです。

- エス・スミルノフ： これを1億4千2百万人で割ってください。そんなに高くはないでしょう。わたしなら3ドルでも6ドルでも払いますよ。あなたのためにね、マリヤ。
- エム・マイエルス： わたしのためだというのはわかりました。でもアフリカでは飢えている人がいるのですよ。
- ア・グレブネワ： すぐに言いたいのですが、アメリカでは実に巨額の費用がかかっています。60億ドルがセンサスへ投じられています。しかも予算の多くの部分が広告宣伝費に支出されます。
- エム・マイエルス： あそこはGDPが何倍も大きいでしょ。
- ア・グレブネワ： それに人口ももっと多いです。あそこはなんでもわが国よりも大きいのです。論文や特にロススタートのデータから分かったことですが、わが国では予算の約半分は、歩き回る調査員の給与に充てられます。そうですね。
- イ・ズバルスカヤ： はい、もちろんです。センサス予算の約半分は臨時調査員の賃金から成っています。2010年センサスでは、1ヶ月から数年まで期間は様々ですが、凡そ80万人の調査員を動員しなければなりません。いずれにせよ80万人分の雇用をわれわれは創り出すということです。
- エム・マイエルス： これはすごいですね。
- イ・ズバルスカヤ： すごいかすごくないか分かりません。でもちゃんと働いてくれれば・・・それから人口センサスに調査員として参加した聴者から次のような質問があるかもしれませんね。報酬が少ないのではないかと。モスクワの所得水準と比べれば多分報酬は多くはありません。でも地方では1ヶ月間調査員として働くための面接に大勢の人が訪れるのです。
- エム・マイエルス： イリーナ、ぜひ聞きたいことがあります。いずれにせよ技術的な質問です。あなたに虚偽申告について質問したら、あなたはこれは基本的な問題ではないといわれました。では、センサスへの参加拒否についてお聞きしたいと思います。
- イ・ズバルスカヤ： 重要なのはどうしたら国民がセンサスに参加したいと思うかということです。
- エム・マイエルス： 世界規模で人口センサスを行うにあたり、あなた方が出くわす最大の問題は何かを教えてください。
- イ・ズバルスカヤ： 世界規模におけるわたし達の課題は、2002年センサスの時にはうまくいかなかったのですが、おそらく次のことを国民に説明することでしょう。つまり人口センサスは政策を実施するうえで国家にとつ

て必要なだけでなく、基本的にわれわれ全てにとって必要であるということです。この課題はとても困難です。あれこれの質問項目が何を目的として設定されたかを説明することです。センサスの課題は第一に人口数を数えることであり、第二に何らかの社会的、人口学的、経済的諸特徴に関する情報を得ることであり、そのために一連の質問項目を設定することです。

エム・マイエルス： わたしたちの番組のテーマとして利用している「狡猾な数字」というフレーズは、あなたもご記憶のアニメからとったものです。小山羊が1番目、小鹿が2番目、子牛が3番目。そこではきちんと数えないと船が沈んでしまいます。憶えていますか、このアニメの結末を。わたし達の状況は似ていませんか。もし数えなければ船が沈む。船の名前を覚えていますか。

イ・ズバルスカヤ： あなたは船の名を呼び、そして船は出港する。もちろんわたしは、日常よく使う次の言葉を繰り返すことができます。つまり、人口センサスは、国民の民族構成や婚姻状態など、業務統計によって収集されない情報全体の源泉であるということです。しかしわたしはこの例を一つだけ示すことができます。わたしたちは人口センサスの後、簡単ではない人口状況、好ましくない長期的及び短期的人口傾向、とについて実に多く語ってきました。その結果このような状況に対して注目されるようになりました。これはわれわれと専門家等との協同の結果もたらされた功績だと思えます。幾つかの政策が採用され、これらによってある程度、もう一度繰り返しますがある程度、これらの好ましくない人口傾向を改善することができました。この政策に対して国家がいくら支出すべきかを計算するためには、人口センサスの結果を利用しなければならないことを私は言いたいのです。なぜならば、戸籍法の規程によれば残念ながらシングルマザーの許に生まれた子供に関する情報を、わたし達が入手することを禁じているからです。また業務統計に基づいて、第1子、第2子、第3子、が何人いるかを知ることができません。従って財務省が第2子とそれに続く子供のための予算を計算するために、人口センサス結果を利用することが必要なのです。

エム・マイエルス： セルゲイ・スミルノフさん、どうぞ。

エス・スミルノフ： これが大変価値のある情報だという点においてはわたしもイリーナと同感です。ではどうしてわたしが否定的に少し頭を横に振ったかをお話しましょう。なぜならば、出生率がある程度改善されたこと

を示すデータから導かれた幾つかの結論を、わたしは懐疑的に捉えているからです。

エム・マイエルス： あなたはロススタートに言いがかりをつけているのではないでしょうね。

エス・スミルノフ： もちろんロススタートにはありません。つぎにあげる人々全員に対してです。なぜならば、正常な人口波動の結果や何らかの社会経済過程の結果が存在することについて、誰も実際に議論しないからです。

エム・マイエルス： セルゲイ、あなたのお考えでは、今日ロシアで行われている人口センサスの主要な問題あるいは最も大きな障害は何だと思えますか。技術的な問題ですか。

エス・スミルノフ： 技術的な問題だと思えます。イリーナが全く正しく説明した通りです。他の問題は通信手段を使って政府へ申告を提出することです。これは部分的には既に行われています。わたしもあなたも税務申告書を記入してそれを送ることができます。自分の所得に関する情報を明らかにすることを恐れない一部の人々が税務申告書を送っているのだと思えます。これは税務署の行列に並ぶ時間の節約ですし、無条件に第1歩前進です。

エム・マイエルス： 郵送ですね。

エス・スミルノフ： はい、郵送とインターネットを使った申告があります。わたしの知る限り、モスクワでは多くの場合このような申告が推奨されています。おそらくここでセンサスの予算をもう一度見直す価値があるように思われます。もう既に船か機関車が少し出発してしまったことは分かります。パイロット調査の過程においてこのような申告方法に対して多くの注意が払われなければならないでしょう。このようにある程度郵送やインターネットを通じた税務申告が広がっていることを考えると、国民は政府へ直接アクセスしたいと見なすことができると思えます。

イ・ズバルスカヤ： センサスを準備する中でわたし達がこのように真剣に議論したことは画期的であった、ということだけはいえると思えます。当然、わたしたちは外国の統計家たちともこの問題をめぐって論議してきました。例えば、2005年には、ニュージーランド、オーストラリア、カナダ、の3国の統計家と論議しました。これらの国々では人口センサスが5年に1度行われています。

ア・グレブネワ： どうしてこれらの国々ではそんなに頻繁に行う必要があるのですか。

イ・ズバルスカヤ： つまり彼等にとって人口センサスはそれほど必要であり、情報に対

する需要がそれほど大きいということなのです。彼等はインターネット利用を含めた人口センサスを組織しようと務めています。これには膨大な準備作業があり、莫大な予算が必要となります。組織や方法論の問題と合わせて、これには特別な技術的問題を解決することが必要となります。というのは全ての情報を暗号化して送信しなければならないからです。この件に就いてはこれ以上申し上げないでおきましょう。ニュージーランドもオーストラリアも既に以前から電子政府法があり、これらの国の国民はこの方法を使った政府とのやり取りの十分な経験があります。しかしインターネットを利用した人口センサスの実施に成功しているのはカナダだけです。これはカナダの自己評価ですが、ニュージーランドとオーストラリアでは未だに芳しい成果は得られていません。従って少しずつこの方向へ進めていかなければなりません。これらの国では伝統的に自己記入方式によってセンサスが行われていますが、インターネットを利用した人口センサスへの移行は簡単ではないように思われます。

エム・マイエルス： 国民の心理的問題だけではなく、情報の安全性の問題があるということですね。

イ・ズバルスカヤ： その通りです。これは総合的な問題です。自分の調査票を記入して送ることはそんなに簡単なことではありません。ですからこれらの国では情報の暗号化、暗号解読、通信網、との整備に多くの時間を費やし、このために新たに多くの労力が必要となります。

エム・マイエルス： マリーナ・アレクサンドロヴナさんが次のようにわたし達に書いて送ってくれました。「センサスを実施する意味がありますか。それなら何故旅券事務所があるのですか。何故わたしたちは出生届を提出し出生証明書を受取るのですか。それでは何故警察の旅券課や戸籍登録課（ЗАГС）があるのですか。彼らが保有する情報を自分達で整理する能力がないのなら、確かにセンサスは必要になるでしょうが。」付け加えると、予算に関する限り確かにおっしゃる通りです。もうひとつ投書がありました。今ちょっと見当たりませんが、次のような内容でした。10年に1度センサスに支出されるお金を使って、一度にデータベースを作り上げ、それを保持すればよいのではないかというものです。

イ・ズバルスカヤ： データベースは人口レジスターと呼ばれています。第一に申し上げたいことは、様々な登録を行う機関、すなわち、戸籍登録課や滞在・居住登録機関には、人口レジスターを行う機能がないということで

す。

エム・マイエルス： でもこれらの機関にはこのような情報がありますね。

イ・ズバルスカヤ： 彼らが持っている情報は、何人出生登録したか、何人分の出生証明書を発行したか、何人分の死亡証明を発行したか、というものだけです。

エム・マイエルス： 全ての出生証明書を発行することができるのなら、第2子や第3子の数に関する情報が得られない訳はないでしょう。そういう情報は全てこれらの機関がもっているのしょうから。

イ・ズバルスカヤ： いいえ、そのような情報はありません。もう一度いいたいのですが、新しい戸籍法の制定に伴って、このような人口諸現象の登録に当たって収集される情報量は多くなりましたが、他方で社会人口情報の多くが失われました。

エム・マイエルス： それは1990年代のことですか。

イ・ズバルスカヤ： 1997年に新しい戸籍法が採択されました。

エム・マイエルス： つまりこのような情報は不十分であって、これをシステム化するのは今日では不可能であるということですか。そしてこのことにお金を投ずるのは意味がないし、10年に1度人口センサスを行ったほうが安くつく。そういうことですか。

イ・ズバルスカヤ： はい。では人口レジスターに関して次のことをお話しましょう。もう随分前のことになります。ソ連時代に幾つかの地方において、人口レジスターを創設するパイロットプロジェクトの試みがありました。その後周期的にこのテーマが持ち上がり、各官庁がその旗振りを試みました。例えば、労働省、情報通信省、経済省、などです。しかし未だにコンセプトの段階であって誰も実行に移していません。なぜならばこの計算を行うためには、多くの連邦法令を制定しなければならないからです。また人口レジスターとは何かをよく理解しなければならないからです。ここで人々は、人口諸現象や住所変更などの情報に関する、全ての変化を申告することが義務付けられます。それがなければ人口レジスターにこれらの情報が反映されません。それができれば人口レジスターは可能でしょう。またこれが2-3年のうちにできると考えるべきではありません。例えば850万人の人口を擁するスウェーデンでは、人口レジスター創設に関する作業を1940年代から開始し、人口レジスターには今でも幾つかの社会レジスターが追加され、包括的なレジスターは未だに創設されるに至っていません。わが国のような人口を抱える国において人口レジスターを

創設した経験はありません。

エム・マイエルス： 全部で5つですか。

イ・ズバルスカヤ： 1億4千500万です。

エム・マイエルス： わたしが言ったのは、5ヶ国ですかということです。

エス・スミルノフ： マーシャ、わたしの考えではそこにもうひとつの危険が潜んでいるように思えます。もしわれわれが人口レジスター創設の道へ歩みだすとすれば、ある聴者が言ったように、問題はどのように個人情報保護するかということです。ここでは実際に情報は具体的な個人と結び付けられています。セルゲイ・スミルノフとかイリーナ・ズバルスカヤとかマーシャ・マイエルスとかアリーナ・グレブネワとかね。

ア・グレブネワ： 情報はアニメのように船の上ではなく、ディスクの上にある。

エス・スミルノフ： そうです。

エム・マイエルス： イリーナは先ほど「義務」という言葉をつかいました。各種の変更に関して申告する義務を国民が負うと。これについてどう思いますか。あなたのお考えを聞きたいのですが。

エス・スミルノフ： もし関連する連邦法があれば・・・われわれは特別な人を除いて、税務申告を記入することを拒みません。

エム・マイエルス： そうです。罰金を払わなければならないからです。ところで英国ではセンサスを拒否するといくら罰金を払わされますか。

ア・グレブネワ： もしセンサスを拒否すると400ポンドです。

イ・ズバルスカヤ： わたしはこの数字を訂正することができます。2001年に罰金額は1,000ポンドにまで引き上げられました。あるいは6ヶ月間の禁固刑が科せられます。とても厳しい法制です。

ア・グレブネワ： わが国ではセンサスへの参加は任意と記憶しています。

エス・スミルノフ： そうです、任意です。

エム・マイエルス： 任意かつ強制的。

エス・スミルノフ： その議論もできますが、今はやめておきましょう。

エム・マイエルス： 後にしましょう。

エス・スミルノフ： うんと後でね。

エム・マイエルス： 残り時間が10分強となりました。まだお聞きしていないことがあります。わたしたちは一番面白い論点を先送りしてしまいました。人口センサスが何故必要かを国民へ説明しなければなりません。この点に関してはモスクワのエコーのサイトが参考になると思います。

ア・グレブネワ： わたしたちはアンケート調査を行い、あなた個人は人口センサスに

参加するつもりですか、と聞きました。はいと答えた人は 61 パーセント、いいえと答えた人は 36.5 パーセントでした。イリーナ、この数字をどうご覧になりますか。

エム・マイエルス： わたし達モスクワのエコーの聴者はこのように特別な人たちですね。わたしたちは常に何らかの反対者であり、そのことがこの数値に直接映し出されました。

イ・ズバルスカヤ： 世論基金の調査による 70 パーセントという数字と、この数字は極めて近いものだと言えると思います。そしてあなた方の聴者の特殊性を考慮しても世論をよく反映していると思います。わたしはこの 61 パーセントという数値に満足しています。36.5 パーセントの人々も望みがないわけではなく、われわれはもちろん彼等に十分密に働きかけていきます。何故人口センサスが必要であり、それは怖いものでも痛いものでもないことを説明します。

エム・マイエルス： 聴者から私たちに質問がきています。ユーリーは次のように言っています。「道化のような統計にどのような価値があるでしょう。人々は公式発表されるインフレーションと実際の消費物資のバスケットとを知っています。」ご存知でしょう、公式発表のインフレーションと経済学者たちが計算する別のインフレーションがあることを。

ア・グレブネワ： センサスの際に調査員に対してドアを開けないつもりであるという、メールがまた届きました。

イ・ズバルスカヤ： ドアを開けてくれないことについてお話ししましょう。

エム・マイエルス： では具体的な数字を使って考えましょう。そのほうが簡単ですから。

ア・グレブネワ： 28 パーセントの人は人口センサスに参加するとはっきり述べています。なぜならばセンサスに何ら不都合な点を見出さないからだということなのです。

エム・マイエルス： アリーナ、待ちなさい。反対の見解もあります。「はい、センサスに何ら不都合な点を見出しません」と答えている人が 28 パーセントいます。一方「いいえ、センサスは誰にも必要ありません」と答えている人が 9 パーセントいます。

エス・スミルノフ： 9 パーセントというのはすばらしい数字です。

エム・マイエルス： 先に進めましょう。具体的に。

ア・グレブネワ： 19 パーセントの人は、国家が人口状況を調べることが必要であり、従って国家が調査員を自分達の所へ派遣するのだ、と考えています。それから 13.5 パーセントの人が、国の経済発展においてセンサス情報が重要な役割を演ずる、と考えています。

- エム・マイエルス： ストップ。いずれにせよ、何故国家がこれを行うのですか。これら 19 パーセントと 13.5 パーセントの人々がどの程度正しいのでしょうか。そしてあなたはこのことにさらに何か付け加えたいことはありますか。あるいは全く反対の見解ですか。
- ア・グレブネワ： 人口状況と経済発展とはなんでしょう。
- エス・スミルノフ： ご存知でしょうか。国民の所得の構成について今一度具体的な例を挙げましょう。国民にとって賃金が最も重要な位置をしめているのならば、この領域について調査しましょう。そこで何が起きており、どのような問題があるのか。もしあなたに何か問題が起きて、所得の大部分が金融機関への預金利息から得られている場合はどうでしょうか。ちょっと調べてください。預金額保護の法令はいつ採択されましたか。40 万ルーブルまで保護されるようになったのはいつでしたか。
- エム・マイエルス： はじめは 10 万ルーブルでしたが、あとで 40 万ルーブルになりました。
- エス・スミルノフ： そうです。いずれにせよ 2002 年以降のことです。それまでは殆どが水の泡と消えたのです。2002 年センサスは結局政治家達に新しい視角を与えました。そしてそのことが国会にこの連邦法制定に向けた作業を促したのです。出生率については今日既に話し合いました。新たな児童手当や母性保護基金も 2002 年人口センサス以降に設けられました。これに対して様々な態度をとることができるでしょう。私はこの本質について話しているのではなく、実際に生じた傾向について話しております。センサスが常に功績があるものとは限りませんが、センサスがこれらの政府決定を採択するための情報基盤を提供しました。
- ア・グレブネワ： ということは 2010 年人口センサスの後にも、なにか肯定的な政策がもたらされると期待できるということでしょうか。
- エス・スミルノフ： 少なくとも母性保護基金は今後も維持されなければなりません。
- エム・マイエルス： 肯定的なことも否定的なことも起きるかもしれません。それがセンサスの後かどうか私にはわかりません。ロシア軍への徴兵を拒否しない人が 2000 人未満になるといわれています。それは 2030 年だったか 2040 年だったか。2030 年でしたでしょうか、私が間違っていないければ。
- ア・グレブネワ： 12 パーセントの人が、国家によるプライバシーへの介入であることを理由に、センサスに参加しないとっています。

エム・マイエルス： イリーナ、これら 12 パーセントの人についてどうですか。

ア・グレブネワ： ただドアを開けないのでしょうか。それが全てです。ドアの問題です。

イ・ズバルスカヤ： 様々な種類の心配からドアを開けないことが考えられます。

エム・マイエルス： それは他の問題です。いまはプライバシー侵害についてだけ話してください。

イ・ズバルスカヤ： プライヴァシー侵害とは何でしょう。次のように考えましょう。「あなたは既婚ですか」と聞かれたとき、あなたはこれをプライバシー侵害と捉えますか。

エム・マイエルス： いいえ、私独身ですから。いずれ結婚したら、もしかするとそのように思うかもしれません。(笑い)

イ・ズバルスカヤ： ほら御覧なさい。つまりプライバシー侵害ではないのです。

ア・グレブネワ： 民族属性について。

イ・ズバルスカヤ： 民族属性。憲法第 26 条には「何人も自らの民族属性を明らかにすることを求められない」とあります。これには第 2 項があります。第 2 項は第 26 条第 1 項に続いて、「全ての人は自らの民族属性を自ら決める権利を有する」とあります。いまでは人々が自分の民族属性を表明する唯一の場が人口センサスとなってしまいました。センサス結果によると約 800 の民族分類があり、ごく少数のエスニックグループに属する人々も自らの民族属性を表明することができます。従って人々が民族属性を答えることを邪魔してはいけません。もし自分の民族属性を答えないのならばの話ですが・・・150 万人がこれについて答えませんでした。

エム・マイエルス： ところでホビットのような人たちをどこに分類しましたか。

ア・グレブネワ： エルフのような人たち等々。

イ・ズバルスカヤ： 彼等はそんなに多くいませんよ。

エム・マイエルス： 残念です。

イ・ズバルスカヤ： 消えてしまったものも含めて 4 万分類もある民族属性を整理する中で、これらの愉快な人々の存在を発見し、コード化しました。お分かりですか。4 万もの民族属性と 1 億 4 千 500 万人を扱うことがどういうことか。信じてください、エルフやホビットのような人はそんなにたくさんいません。

エム・マイエルス： 概して正式な少数民族と見ることができますね。

ア・グレブネワ： 宗教や信仰は調査に含まれませんか。

イ・ズバルスカヤ： はい、私たちは宗教属性に関する質問はしません。

エス・スミルノフ： ところで 1937 年センサスでは調査票にこの質問がありました。その

結果、またセンサスにおける個々のデータの信頼性に関わる問題は残りますが、ソ連の国民の全てが実際に無心論者になったということが突然明らかにされました。何故こうなったかは分かります。しかも1917年には90パーセントの人が正教信者と名乗っていました。

イ・ズバルスカヤ： 2002年センサスの時、神の^{よみ}嘉みせし事業である人口センサスに関わったとして、私個人はモスクワ大司教のセルギー神父から祝福を受けました。ロシアに公式に存在する14の宗教団体のいずれも、調査票に宗教や信仰上の属性に関する質問を含めるよう、強請したものはありませんでした。

エム・マイエルス： 自らについて真実を知るのが怖いのでしょうか。

イ・ズバルスカヤ： どうしてそうなったか私は知りません。

ア・グレブネワ： 聖職者達に信者を集めて人口センサスが必要だと説得してくれという、広報宣伝活動が宗教団体の機嫌を損ねたことが、確かにあった用に記憶しています。

イ・ズバルスカヤ： すでに私が申しましたように、これは神の^{よみ}嘉みせし事業です。そしてアレクシー神父やイスラム法学者等の、多くの宗教団体の指導者たちは、信徒等に向かってこれが真に神の^{よみ}嘉みせし事業であり、人口センサスに参加し、自らに関する情報を申告するよう人々に説きました。これと並んで幾つかの修道院が私たちに場所を提供し、そこも人口センサスの調査会場になりました。

エム・マイエルス： イスラム教徒に受け入れられたことは重要ですね。

ア・グレブネワ： イスラム教徒もこのことは気に入ったようです。ご覧ください。13パーセントの人は次の理由で、センサスに参加しないと言っています。なぜならこれは予算の浪費手段に過ぎないと考えているからです。13パーセントの人は、何にお金を使っているか分からない、という視点で回答しています。

イ・ズバルスカヤ： 私たちが彼等に説明しましょう。

エム・マイエルス： これに取り組んでください。先へ行きましょう。

ア・グレブネワ： 2.5パーセントの人は、調査員に化けた強盗が怖いからセンサスに参加しないと言っています。

エム・マイエルス： ほら安全の問題が出てきました。

ア・グレブネワ： 私たちのところに次のようなメールが送られてきました。今ちょっと見当たりませんが。調査員と名乗る人が本当にセンサスに従事している人なのか、あるいはペテン師かを、どのように見分ければよいでしょうか、という内容でした。

イ・ズバルスカヤ： 第一に、全ての調査員は特別な身分証明書を携行しています。彼等はパスポートと一緒に被調査者へこれを提示しなければなりません。人々が好ましからざる訪問者を恐れるというのは、特に大都市では深刻な問題であり、よく理解できます。もしそうであるなら、2002年センサス時と同様にセンサス常設出張事務所を開設します。そこへ出向いて調査に応ずることができます。もし見知らぬ人にドアを開けると、自分の身の安全や生活が脅かされると、心配しなくても良くなります。

ア・グレブネワ： また1パーセント（全ての人の声が重要であることを忘れてはいけません）の人は次のように言っています。全ての人がセンサスに参加することが社会を結束させるから、自分もセンサスに参加するのだと。たった1パーセントの人がセンサスを国民統一の手段と見なしています。

エム・マイエルス： 皮肉ですね、セルゲイ。

エス・スミルノフ： 全くその通り。

エム・マイエルス： どうしてですか。

エス・スミルノフ： センサスが何を結束させるというのですか。

エム・マイエルス： だって、「ロシアの歴史に自分を刻め」でしょ。ところで、私はこの答えを自分で考えついたわけではありません。私はこれを、ロススタート長官のインタビューの中に見つけたのです。

エス・スミルノフ： イリーナがはっきり言ったように、センサス情報は個人が特定されるものではありません。ですからセンサスに参加することで、自分自身をロシアの歴史に刻むと言うことなど、決してできないのです。私たちは、自分の年齢、グループ、性別、婚姻状態、等の代表者を書き込むに過ぎないのです。

エム・マイエルス： 簡単にいって、みんなごまかしですね。

ア・グレブネワ： でしたらどのようにして人々をセンサスに参加させますか。

エス・スミルノフ： 社会の結束のためには他のことが必要です。

エム・マイエルス： ロシアの歴史に自らを刻むな、そう努力しようとも思うな。

イ・ズバルスカヤ： 2010年センサスのスローガンはもう少し違ったものになるでしょう。なぜならば状況も社会関係も変わるからです。「ロシアの歴史に自らを刻め」は2002年の時点に照応したものでした。すなわち、あの社会の転換点に私たちはいたのです。

エス・スミルノフ： もちろんです。

エム・マイエルス： 私たちのゲストにお礼を申し上げます。ロススタート人口・保健統計

課長のイリーナ・ズバルスカヤさんと、高等経済院社会政策社会経済計画研究所長のセルゲイ・スミルノフさんでした。「人口センサスはあなたにとって必要ですか」という問いに答えを見出すべく私たちは務めてきました。アリーナ・グレブネワさん、あなたにとって必要ですか。

ア・グレブネワ : 必要です。聴者の一人が言っているように、センサスに関連した番組のシリーズを担当するのが、私たち「狡猾な数字」の出演者たちの憧れですから。2010年にまたこのテーマを取り上げましょう。

エム・マイエルス : これはうまい答えです。どうもありがとうございました。「狡猾な数字」でした。

4. 人口センサス —2008年4月10日付け世論調査報告—

世論基金サイト上に公開された文書

<http://bd.fom.ru/report/map/d081424>

これはロシアの46州・地方・共和国の100居住地域における調査である。2008年4月5日から6日にかけて1500人を対象とし、それぞれの居住地において調査した。標本誤差は3.6%未満である。

前回のロシア全国人口センサスは2002年に実施された。しかし今では、それが全国を対象としているというものの、世論基金が調査したロシア国民のうち70パーセントだけがこのセンサスの調査を受けたと回答している。また19パーセントの人が調査を受けなかったとはっきり回答した。その他の人々は、センサスに参加したのかあるいは回答を拒否したのか、もう憶えていないと答えた。

2002年センサス当時未成年であったため調査を直接受けず、この間に成人に達している数百万人のロシア国民がもちろんいる。しかし55歳以上の年長者間においても、センサスに参加したと答えている人は79パーセントだけであり、参加しなかったと答えた人は12パーセントであった。36歳から54歳までの中間年齢階層の人々の間では、それぞれの数値は、77パーセントと14パーセントであった。

しかしこれらのデータが、センサス実施過程における大規模な誤りの確固たる証拠であると、解釈するのは間違っているかもしれない。これらの数値を公表することによって、そのような解釈を呼び起こすことになるかもしれないが。ここではむしろ多くのロシア国民の忘れっぽさが原因であると解釈すべきかもしれない。センサス結果をマスコミが比較的控えめに報道することと関連して、全ての人がこれらの情報に対して関心を抱いているわけではないことに注目しなければならない。

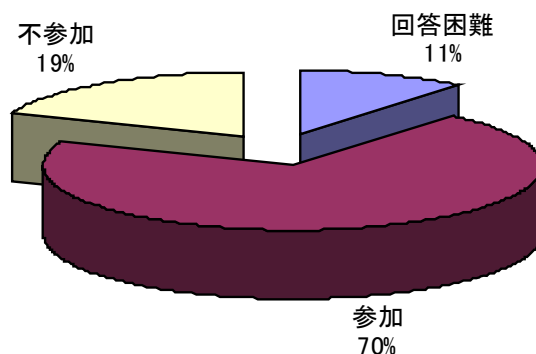
被調査者の10人に1人(10%)が、センサスによって収集されたロシアの人口に関するいかなる情報に対しても興味がないと回答した。しかもこの数値は被調査者の年齢に応じて僅かにしか変化しない。また9パーセントの人が、センサスのどの調査項目に関心があるのか、答えるのが難しいと言っている。この世論調査では、人口センサスの質問項目のリストが被調査者に示され、この中から3つまで選ぶように求めた。大方の被調査者は国の全人口数を知りたいと答えた(49%)。2番目に関心が高かったのはアパートに関する調査項目であった。被調査者の29パーセントがロシア国民の住宅条件に関心をもっている。多くの人が民族構成(24%)と収入源(23%)とを知りたがっている。教育水準と雇用への関心はやや下回っている(各18%)。また移民とその年齢性別構成への関心がそれに続く(各15%)。

しかし被調査者はセンサス結果を信用しているであろうか。また調査員の質問に対する

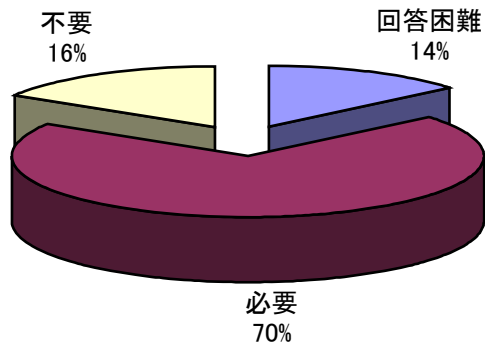
国民の回答を信用しているであろうか。被調査者には次のような質問がなされた。すなわち、2002年人口センサスにおいて採用された一連の質問項目のうち、どれに対して国民が正直に答えなかった、または回答を拒否したと思うかというものである。質問項目を記載したカードが示され、いくつでも選ぶことができた。全ての質問項目に対してロシア国民が正直に答えたと信じている人は、被調査者の22パーセントであった。また若年層においてはこの数値は17パーセント、年長者の間では28パーセントであった。また19パーセントの人が回答困難と答え、また1パーセントの人が全ての質問項目に対して人々は正直に答えなかったと思うと回答した。他の回答者に関して言うと、大抵は収入源に関する質問に対する回答が信用できないと考える傾向がある(49%)。またこの質問に近い雇用に関する質問に対しては、その半分の24.5パーセントの人が人々の回答を信用できないと答えている。民族属性に関する質問への回答が信用できないと考えている人は、被調査者の12パーセントであり、住宅条件に関しては10パーセントであった。教育水準、家族構成、年齢、に関する回答が信用できないと考えている人はさらに少なく、それぞれ7%、6%、4%であった。

センサス結果の真実性に関するある程度の懐疑は、センサス結果への関心が大きくないことと同様に、この手間とお金のかかる事業の合理性に対する疑問を呼び起こしていることは明らかである。16パーセントの被調査者は全国人口センサスが不要であると考えている。また14パーセントの人がこの質問に回答することが困難であるといっている。しかし70パーセントにのぼる大多数のロシア国民は、全国的センサスを実施しなければならないことに、基本的に同意している。

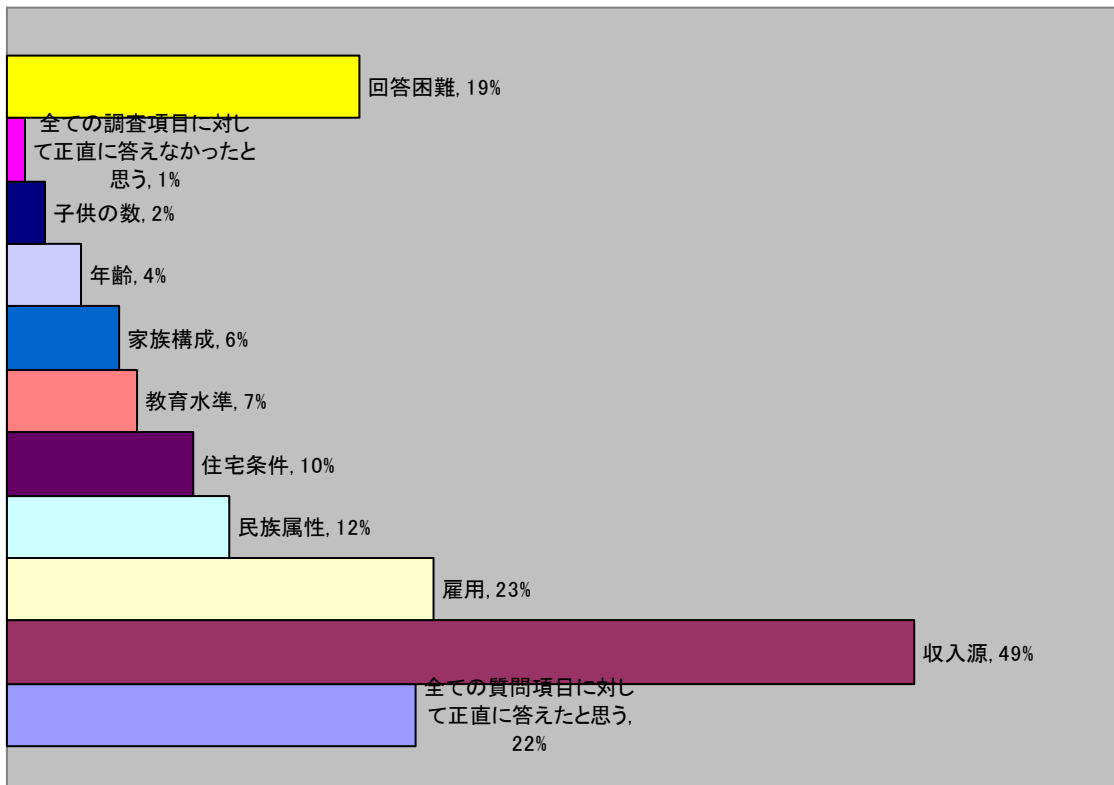
あなたは2002年全国人口センサスに参加しましたか



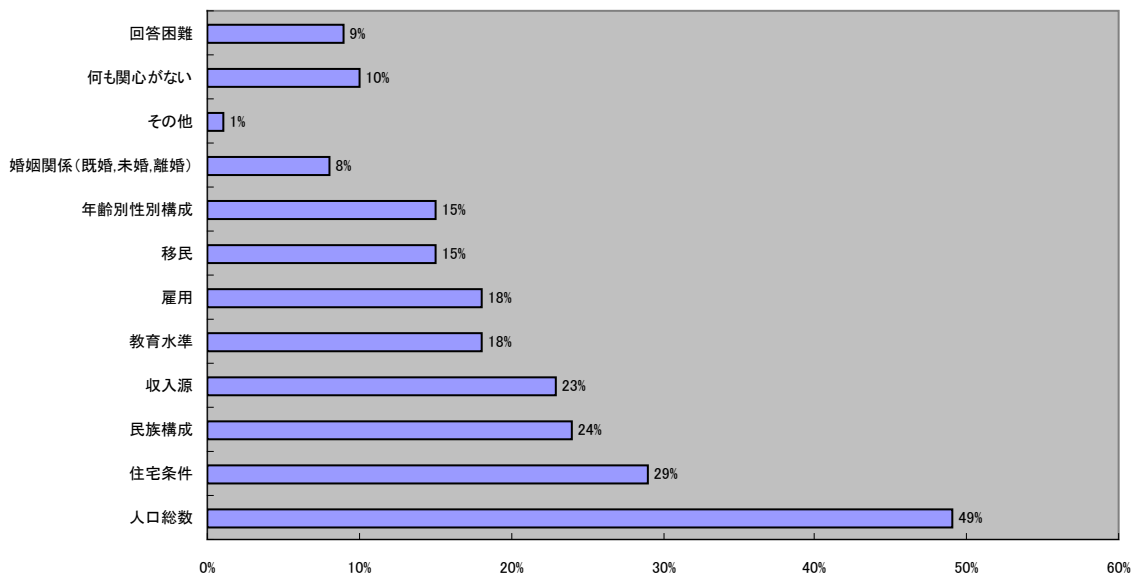
全国人口センサス実施が必要だと思いますか。



2002年人口センサスにおいて国民に問われた質問項目の幾つかがカードに示されています。これらの質問項目のうちどれに対して、国民が不正直に回答し、あるいは回答を拒否したと思いますか。



センサスの過程で収集されたロシア国民に関する情報のうち、あなたはどれに最も関心がありますか。3つ以内で教えてください。



人口センサスがなぜ必要であり、また国にとって主な利用価値は何であると、あなたは考えますか。(自由記述) (全ての被調査者に対する%)

人口数と人口構成（年齢、性別、等）に関する資料を得ること	40%
「どれだけの若者と老人が残っているかを知って考えるため」「毎年的人口減少の結果、人口がどれだけ残ったかを知ること」「子供、大人、若者、老人、など人口数を知ること」「年齢性別構成を知ること」「人口増減」「われわれが滅亡するかどうかという人口問題を知ること」「各年齢階層の人々がロシアに何人暮らしているかを知ること」「今わが国に各年齢階層の人が何人いるかを調べること」「人口構成を知ること」「人口構成を正確に知ること」「ロシアに誰が住んでいるかを正確に知ること」「国の人口について知ること」「人口構成を知るためにセンサスは必要だ」	
国民の就業状態、所得、などの国に社会経済状況に関する資料を得ること	8%
「雇用、教育、生活水準」「国民の所得を知ること」「貧困状態の飢えた人々が何人いるかを知ること。就学していない若者が何人いるか、失業者とホームレスが何人いるか、を知ること。」「医師や公証人等が何人いるかを調べること」「民族属性が何種類あるか、失業者が何人いるか」「われわれの生活水準を知ること」「失業について知ること」「教育水準、収入源」「国の労働力算出」「就業者と失業者がどれだけいるかを知ること」	
統計計算	7%
「統計のために必要」「人口に関する正確な資料が必要」「人口全体の計算」「統	

計、これなしには何もできない」「統計、全ての数値を持つこと」「計算は全てについて行わなければならない」	
国家行政の効率性向上、ロシアの発展の計画化	7%
「政府が然るべき解決策を採用することを可能とするために必要な、ロシア居住者に関するより正確な資料」「国の発展の分析、計画化、予測、のため」「国家の計画プログラムのため」「計画化のため、国を管理するためにこの情報は必要」「将来におけるわが国発展の均衡を知るため」「国がどう歩むべきかを知らなければならない。非常に必要である」「秩序と将来予測のため」「国の経済発展を計画化するため」「住居がどれだけ必要かを計画すること、教育計画を確認すること」「食料がどれだけ必要かを計算すること」「これは第一に、ロシア政府が社会政策を立案する上で役に立つ」	
国の状態と人々の生活に関する正確な情報が必要	6%
「われわれがどう暮らしているかを知しましょう」「全ての人全ての人について知る」「自分のくについて全てを知ること」「国民がどう暮らしているかを知る」「国の状態を知る」「自分の国民について知らなければならない」「国が大きい。なにがどうであり、われわれが何によって暮らしているか、全てを知ることが必要」「国のリアルな状態について知るため」	
国民の民族構成を明らかにすること	3%
「どんな民族がすんでいるかを知ること」「ロシア人が何人で、その他の民族が何人か、という数を知ること」「民族問題を知ること」「本当のロシア人が何人いるかを知ること」「ロシア人がどれだけ残っているかを知ること」「どんな民族がいるか」「国民の民族構成を明らかにできる」「ロシアの諸民族について知るため」	
不法滞在移民問題	3%
「移民がどれだけいるかを知ること」「移民水準を知るため」「移民人口を知ること」「移民人口をコントロールするため」	
センサスが行われてから時間が経過していない	1%
「実施されてからあまり時間が経過していない。なぜまたやるのか。人口に関する全ての資料はコンピュータの中にあるのでは」「実施されてからあまり時間が経過していないので、センサスを実施するのはまだ早い」「人口センサスをそんなに頻繁におこなうのはなぜか」「実施されてからあまり時間が経過していないのに、なぜいまやるのか」「実施されてからあまり時間が経過していない」「人口状況を確認するためのセンサスは50年後に必要だ」	
これは誰にとって必要なのか、政府か、政治家か、その他か	1%

「わが国政府のため」「政治家のため、歴史家のため」「国家にとって必要なら」「国家にとって必要ならやればよい」「投票を依頼すべき人にとって」「国家にとって必要」「誰かにとって数字が必要」	
センサスはいつの時代も行われてきたので必要	1%
「ツァーリの治世下でさえセンサスはあった」「毎年わが国は何か変化しているのでコントロールすることが必要」「そういうものとして必要」「センサスは以前から行われている。これは今日のロシアにとっても歴史にとっても必要」「することになっている」「そう思う」「これを知らなければならない」「これは必要なことだ」「これは国家にとって必要だと思う。センサスは以前から行われており、これが誰かに被害を及ぼすとは思わない」	
秩序をもたらすこと、犯罪者と行方不明者を探すこと	1%
「秩序のため」「捜査対象となる犯罪を減少させること」「多くの人が消え、どこへいったか分からない」「秩序をもたらすこと」「司直の助けとなるため」「国に秩序をもたらすため」	
その他	1%
「興味のため」「あらゆるばかげたことのため」「国民をコントロールすること」「ホームレスや浮浪者を誰が調査するのか」「われわれは文明化された人間だ」「国民は自らについて全てを知らなければならない」「税金をどれだけの人が払いどれだけの人が払っていないかを調べること」「幾つかの役所の好奇心を満たすため」「国に何があるかを知る」	
センサスは必要ない	4%
「それが何の役に立つか」「全ての資料は村と都市のソヴィエトにある」「やる意味があるのか」「無駄な書き物」「これに何らの利用価値も見出せない」「センサスは不要」「意味がない」	
センサスは無駄なお金と時間の浪費であり、それよりもっと重要な問題がある	3%
「正当化されない多額の出費である」「ホームレスは多く、金はない、人々は空腹で、そのうえセンサスか」「金を溝へ捨てるようなこと」「金は年金増額に使うべきで、センサスに使うべきでない」「金がむなしく費やされる」「無駄な出費」「何も効果がない。金と時間の無駄。全ては急速に変化する」「利用価値はない。どこもかしこもお金を必要としている。給与や年金を増額したほうが良い。見てくれだけのことに使うな」「時間と金のむなしい支出」「金と時間の浪費」	
回答困難、無回答	28%

付 表

あなたの考えでは、全国人口センサスを実施することは必要ですか不要ですか

	全人口	性別		年齢			教育水準				所得			居住地分類				インターネット利用者の占める割合	
		男	女	18から35歳	36から54歳	55歳以上	中等教育未満	中等普通教育	中等専門教育	高等教育	3000ルーブル未満	3001—5000ルーブル	5000ルーブル以上	モスクワ	メガポリス	大都市	小都市		村
構成比率	100	46	54	36	37	27	13	34	35	18	28	29	30	8	12	16	37	26	25
必要	70	68	71	72	72	64	63	69	71	74	67	70	69	64	64	72	70	72	73
不要	16	17	15	13	16	20	20	16	17	17	18	15	18	19	19	13	17	14	16
回答困難	14	15	14	15	12	16	16	15	13	9	15	15	13	18	18	15	13	14	11

注：「インターネット利用者の占める割合」とは、「あなたが最近インターネットを利用したのはいつですか」という問いに対する回答において、「昨日」「先週」「先月」と答えた人が、各回答数に占める割合である。

あなた自身は 2002 年全ロシア人口センサスに参加しましたか、あるいは参加しませんでしたか。

	全人口	性別		年齢			教育水準				所得			居住地分類				インターネット利用者の占める割合	
		男	女	18から35歳	36から54歳	55歳以上	中等教育未満	中等普通教育	中等専門教育	高等教育	3000ルーブル未満	3001—5000ルーブル	5000ルーブル以上	モスクワ	メガポリス	大都市	小都市		村
構成比率	100	46	54	36	37	27	13	34	35	18	28	29	30	8	12	16	37	26	25
参加した	69	67	71	55	77	79	64	64	73	76	70	72	70	72	76	73	65	69	67
参加しなかった	19	19	19	30	14	12	19	23	16	19	19	17	19	20	12	17	23	19	22
回答困難、憶えていない	11	14	9	15	9	9	17	13	11	5	11	11	10	8	12	10	12	12	11

2002 年センサスにおいて国民に示された質問項目の幾つかがカードに示されています。これらの質問項目リストのうちどれに対して、国民が正直に答えなかったか、あるいは回答を拒否したと、あなたは考えますか。(回答数自由)

	全人口	性別		年齢			教育水準					所得		居住地分類					インターネット利用者の占める割合
		男	女	18から35歳	36から54歳	55歳以上	中等教育未満	中等普通教育	中等専門教育	高等教育	3000ルーブル未満	3001—5000ルーブル	5000ルーブル以上	モスクワ	メガポリス	大都市	小都市	村	
構成比率	100	46	54	36	37	27	13	34	35	18	28	29	30	8	12	16	37	26	25
全ての質問項目に正直に答えた	22	19	24	17	22	28	26	23	21	18	26	23	18	4	23	23	24	23	13
収入源	49	51	48	50	53	42	36	46	51	60	45	48	55	69	49	51	45	48	58
雇用	23	25	21	28	23	17	14	22	25	30	16	26	30	40	25	27	19	21	32
民族属性	12	13	11	15	12	8	9	14	12	12	10	10	16	16	17	12	10	12	19
住宅条件	10	11	9	12	9	7	7	10	10	11	8	10	11	16	10	8	8	11	11
教育水準	7	7	7	9	7	3	4	6	7	9	4	7	7	16	6	6	7	4	11
家族構成	6	6	6	6	7	3	4	7	6	5	5	5	7	12	5	5	5	6	6
年齢	4	4	3	5	3	3	2	4	4	3	4	2	4	3	3	4	4	4	3
子供の数	2	2	2	2	2	1	0	2	2	1	2	1	3	2	1	2	2	2	3
全ての質問項目に正直に答えなかった	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1
回答困難	19	19	19	19	16	24	32	19	17	13	21	19	16	10	20	15	22	21	16

センサスの過程において収集された人口情報のどれに対してあなたは関心がありますか。(回答3つ以内)

	全人口	性別		年齢			教育水準				所得			居住地分類				インターネット利用者の占める割合	
		男	女	18から35歳	36から54歳	55歳以上	中等教育未満	中等普通教育	中等専門教育	高等教育	3000ルーブル未満	3001—5000ルーブル	5000ルーブル以上	モスクワ	メガポリス	大都市	小都市		村
構成比率	100	46	54	36	37	27	13	34	35	18	28	29	30	8	12	16	37	26	25
全人口数	49	49	48	51	48	47	48	50	48	47	50	50	48	46	52	44	48	52	50
住宅条件	29	26	31	27	31	28	23	30	31	27	29	31	30	32	27	34	29	25	27
民族構成	24	26	23	26	25	21	21	24	24	29	21	21	29	31	30	24	23	22	30
収入源	23	23	22	22	24	23	17	24	24	22	24	24	24	21	24	22	22	24	22
教育水準	18	15	20	23	16	14	12	16	18	26	15	14	22	24	27	20	14	17	28
雇用	18	18	18	18	18	18	15	16	17	25	14	17	22	29	17	18	15	18	22
移民人口	15	17	14	15	16	15	10	14	15	21	11	17	17	32	19	13	12	14	21
性別年齢構成	15	15	15	17	14	12	11	15	16	13	10	16	18	8	22	14	16	12	16
婚姻関係(既婚,未婚,離別者の数)	8	7	9	10	6	8	11	7	9	6	7	9	8	6	9	9	7	9	7
その他	1	1	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	1	3	0	1	0	1	0
何もない	10	9	12	10	9	13	15	1	11	7	13	12	7	6	6	9	11	14	8
回答困難	9	9	8	6	10	11	15	8	7	9	10	10	6	3	3	13	9	9	6

メールアドレス：web@fom.ru

www.fom.ruサイトの資料と世論基金データベース (bd.fom.ru) を利用する際は、出所を必ず明記しなければならない。

訳者あとがき

国連 2010 年ラウンドの一環として 2010 年ロシア人口センサスが計画されている。このリハーサルとして 2008 年 10 月、モスクワ、サンクトペテルブルグ、ハバロフスク、との 3 都市において予備センサスが行われた。2010 年ロシア人口センサスへ向けた準備が進められる一方で、人口センサスの真実性に関する論議もロシア国内において活発となりつつある。

すなわち、2002 年センサスにおいて露呈した、調査拒否や虚偽申告などの調査環境悪化に対するいくつかの新たな対策が、2010 年人口センサスにおいて採用される予定であり、これらの方策のうち自己記入方式と郵送による調査票回収が、ロシアの特殊な社会状況下において定着しうるか、またこれが調査環境の改善へ繋がるか、と言う問題に対して関心が寄せられている。

本号『統計研究参考資料』において、2002 年人口センサスと 2010 年センサスの調査環境に関する資料を紹介する。資料の原題は次の通りである。

①「人々は計算が好きである」

Люди счёт любят. «Вопросы Статистики» №9/2008. стр.3-6.

②デニス・グツコ「予備センサス」

Денис Гущко. Пробная перепись. «Огнёк» №24/2008. стр.10-11.

③ラジオモスクワのエコーインタビュー「狡猾な数字—人口センサスはあなたにとって必要ですか—」2008 年 8 月 26 日放送。

Эхо Москвы Интервью. «Луковая цифра -Перепись населения: оно вам надо?»
www.echo.msk.ru/guests/3888/

④世論基金「人口センサス—2008 年 4 月 10 日付け世論調査報告—」

Перепись населения. 10.04.2008[отчёт] [Опрос населения]
<http://bd.fom.ru/report/map/d081424>

②の論文は①の論文中において取り上げられており、また④の調査報告は③のラジオ番組において取り上げられている。

さて、これらの資料以外にも、2002 年人口センサスの調査環境の悪化を示す多くの文書がある。

このうちロシア国家統計庁による総括によると、センサスに対する妨害行為として警察に

よって認知された犯罪件数が次の通りであった²。

勤務時間内における調査員に対する暴行	7件
調査員事務所への強盗	2件
勤務時間外における調査員に対する暴行	4件
調査員事務所の爆破未遂	2件

これら以外にも、調査員が番犬を放たれた、斧をもって追い返された、という事例が本資料において翻訳したグツコ論文にも紹介されている。

また調査に実際に関わった臨時調査員等の証言は、数値の改ざん、調査漏れ、等の問題を知る上で貴重な資料である。これらの実査に関わった調査員等の証言の一部をみよう。ここで依拠する資料は、調査直後に科学アカデミーにおいて行われた会議録³と国立高等経済院において行われた会議録⁴とである。

① 調査漏れへの対応

〈住人名簿からの転記〉

調査員が世帯を訪問し直接聞き取りを行うことが基本とされたが、被調査者が不在で面会できない場合、被調査者に関する情報が住宅管理事務所記録（ДЭЗ: Дата Эксплуатации Зданий）の住人名簿から転記されたという⁵。しかし住人名簿から転記できたのは、性別、年齢、出生地、などの限られた情報であり、調査票において求められる調査項目としては不十分であった。また住人名簿は法定人口に近い一種の登録人口であり、定住人口から乖離する可能性が小さくない。

〈常設出張事務所における調査〉

調査員による世帯訪問を希望しない人々が常設出張事務所へ赴いて調査を受けることができた。この場合同一世帯の複数の者が調査に応じるという重複が度々生じた。事後の点検によって同一世帯に対する重複調査であることが判明し、1つの調査票に転記された事例が報告されている⁶。

〈電話による聞き取り〉

² Информация о проведении Всероссийской переписи населения 2002 года. «Вопросы Статистики» №1/2003. стр.5.

³ В.А.Борисов. Как проводила перепись населения 2002 года в г. Москве: Впечатления участников. «Вопросы Статистики» 2003 №2. стр.54-62.

⁴ Г.Р.Калимуллин. Семинар о переписи населения в ГУ-ВШЭ. «Вопросы Статистики» 2003 №2. стр.62-66.

⁵ Москва経済統計大学人口学講座講師エゴロワの証言。В.А.Борисов. Указ.соч., стр.57.

⁶ Там же, стр.56.

電話による聞き取りにおいて誰が回答しているかを確認することが難しいため、データの信憑性に疑問が残るといふ調査員の証言がある⁷。

〈調査の捕捉率〉

センサス終了後ロシア国家統計庁のソコーリン長官は、調査の捕捉率は全人口の 99.8% という高い数値を発表した⁸。しかし多くの調査員が証言しているように、実際に調査漏れは大きかったようである。

調査員として参加したある学生は、自身の調査区では 60%から 70%の世帯を直接訪問することができたが⁹、残りの世帯については住宅管理事務所記録から転記したと証言している。

またある教授は自らの被調査者としての体験を語っている¹⁰。ある日調査員から自宅へ電話があり、常設出張事務所での聞き取りと電話での聞き取りとどちらを希望するかを尋ねられた。電話での調査を希望したところ都合の良い時間に事務所へ電話をかけるように言われ、事務所の電話番号も告げられずに電話を切られた。後日インターネットを通じて事務所の電話番号を知り調査に応じたという。

また他の教授も自身が調査から漏れたと次のように証言している¹¹。彼と妻を調査員が訪れることは結局なかった。自分の居住区内で調査員の姿を見たことがないし、常設出張事務所がどこにあるのかもわからなかった。彼は、自分の居住区では調査がそもそも行われず、はじめから住宅管理事務所の住人名簿を転記することで済ませていたのだろうと推測している。

またこれら以外にも自らが調査から漏れたことを示す、ジャーナリスト等による証言が多数ある¹²。

②調査員の能力

調査員の多くが学生であり、忙しい勉学の傍らでモチベーションの低いものが少なくなかった。彼等の中には、大学を通じて調査員として従事することを強要されたと感じるものがおり、これに応じなければ処分されるという噂まで広がった¹³。低いモチベーションの要因のひとつが待遇の低さである。手当ては、一般調査員の場合 1500 ルーブル、指導員の場

⁷Там же, стр.55.

⁸Там же, стр.61.

⁹ モスクワ経済統計大学3年生アンティポワの証言。Там же, стр.55.

¹⁰科学アカデミー教授ザハロフの証言。Там же, стр.60.

¹¹ モスクワ大学人口学教授ポリソフの証言。Там же, стр.60.

¹²Там же, стр.61.

¹³Калимуллинстр. Указ.соч., стр.63.

合 2500 ルーブルであった。また支給される筆記用具は質が悪く、多くの調査員が自費で新たに購入しなければならなかった¹⁴。拘束時間は8時から22時までの長時間に及んだ¹⁵。

調査員の中には音楽学校の教師など統計調査に明るくないものも多くいた。調査員の能力の低さを示す次のような証言がある¹⁶。ある教授によると、調査員は彼女に対して民族属性を尋ねることはなく「ロシア人」と記入したし、収入源に関する項目については「あなたは働いていますね」といっただけで調査票に何かを記入していた。また、これまでの出産数について調査員が質問しないので、そのことを指摘すると、「ありがとう、この質問をいつも忘れますの」といったという。

③調査票の誤記と改ざん

〈誤記〉

調査員に対する研修が不十分であったため調査票の誤記が多く見られた。例えば、「8歳の女の子の母親が16歳である」とか、「28歳の女性に56歳の息子がいる」といった続柄に関する多くの誤りがあったという¹⁷。

調査員の能力不足に起因する誤記だけでなく、被調査者の誤解や利害に起因する誤記も多かったという。例えば、民族属性と国籍とがしばしば混同され、その結果としてロシア民族の数が過大に反映された可能性が大きい¹⁸。また多くの人々が民族属性に関する回答を拒否した。またウクライナ人のある軍人がロシア人と回答した例が報告されている¹⁹。習得言語についてもその習得水準は不問と多くの人々が理解したため、外国語習得者数は過大に反映された可能性がある。さらに、雇用や収入源に関する回答を多くの人々が拒否した。

〈改ざん〉

1人の調査員が1日あたり50人から60人を調査することがノルマであったので、計画どおり作業が進まない場合は、調査員による作り話が勝手に調査票へ書き込まれた²⁰。

④世帯訪問の困難

世論基金が2002年センサス直後に行った調査²¹によると、自宅において調査に応じた

¹⁴Борисов. Указ.соч., стр.56

¹⁵Калимуллин.Указ.соч., стр.63.

¹⁶ モスクワ経済統計大学教授クチマエワの証言。Борисов. Указ.соч., стр.57.

¹⁷Там же, стр.56.

¹⁸Калимуллин.Указ.соч., стр.63.

¹⁹Там же, стр.63.

²⁰高等経済院3年生クリコワの証言。Там же, стр.63.

²¹Распределение ответов респондентов по социально-демографическим группам. 17.10.2002. [отчёт][опрос населения] www.fom.ru

人は次のように大都市において極めて少ない。

	全国	モスクワ市
自宅	59%	34%
常設出張事務所	3%	10%
電話による	2%	8%

世帯訪問が困難であることは、本資料において翻訳したラジオモスクワのエコーインタビューにおいても指摘されている。

これへの対応として 2010 年センサスにおいて採用される、自己記入と調査票の郵便返送とが、成功裡に機能するのかどうか注目されるところである。

人口センサスの調査環境の悪化はわが国をはじめ多くの国において共通する問題である。しかし、その問題が最も先鋭的に現れているのがロシアではなかろうか。

多くの国に共通するこの問題を考察する上で、ロシアの調査環境をめぐる論議が参考になろう。

以上の翻訳とあとがきは、山口秋義（九州国際大学経済学部）が担当した。

統計研究参考資料(最近刊行分)

号数	タイトル	刊行年月日
83	マイクロデータ利用による日英の雇用構造の比較研究	2003. 09. 30
84	設備投資関連指標から民間設備投資を読む	2003. 06. 20
85	中国31省市の競争力評価報告	2004. 02. 25
86	イギリスにおけるビジネス・レジスターについて	2004. 10. 01
87	ICT・メディアとジェンダー問題・ジェンダー統計(1)	2004. 12. 25
88	地域景況調査の実施状況	2005. 02. 28
89	統計の品質(3)—国際統計機関における統計の品質	2005. 09. 30
90	韓国2000年産業別購買力平価の推計	2005. 10. 03
91	イギリス国家統計局(ONS) 世帯サテライト勘定(試験的)方法論	2005. 12. 25
92	ジェンダー予算・人中心の予算(1)—翻訳と関連論文	2006. 03. 25
93	統計の品質(4):—IMF・品質サイトとQ2004を中心に—	2006. 07. 25
94	中国国民経済計算体系2002	2006. 08. 01
95	韓国「統計法」改正	2007. 02. 01
96	日中韓2000年産業別購買力平価の推計	2007. 04. 01
97	統計の品質論(5)—Q2006とQ2006サテライト会議から(翻訳と関係論文)	2007. 05. 31
98	世帯生産と消費	2008. 01. 01
99	中国国家統計局「都市家計調査」の家計収支項目分類の変遷に関する研究	2008. 10. 20
100	中国産業連関表のデフレーターと実質化	2008. 11. 01

統計研究参考資料 No. 101

ロシア人口センサスの調査環境
2009年1月31日

発行所 法政大学日本統計研究所
〒194-0298 東京都町田市相原町4342
Tel. 042-783-2325, 2326
Fax 042-783-2332

Email jsri@mt.tama.hosei.ac.jp

発行人 伊藤 陽一